

「つながり」が拓く**堺**の未来

実践報告集

社会教育の観点から、
魅力あふれるさまざまな市民の活動をご紹介します。



笑顔あふれる 住み続けたいまち
SDGs未来都市・堺
Sustainable Development Goals Future City, SAKAI CITY

令和元年11月
堺市社会教育委員会



はじめに

堺市社会教育委員会が平成29年6月に「『つながり』がこれからの堺を変える～堺が考える社会教育～（提言書）」（以下「提言書」という。）を作成してから2年が経ちました。

「提言書」の「はじめに」において、私たち社会教育委員が気づいたこととして、「『社会教育とは何か』という問いを書物や学識経験者の理論や、公民館、図書館や博物館などの社会教育施設での教育、これまでの『行政の立場から見た社会教育』という枠組みに求めるだけでは、激しく変動していく社会のなかで、多くのみなさんが日々実感している、成長につながる貴重な学びあい教えあいの理解と発展には十分ではない」ということをお示しました。

その後、わずか2年のうちに、社会教育を取り巻く環境は大きく変化しました。出入国管理及び難民認定法が改正され多くの外国の方が就労のため来日が予想されたり、約140年ぶりに成人年齢が見直され20歳から18歳に引き下げられたり、堺茶の湯まちづくり条例が施行されたり、堺がSDGs未来都市に選定されるなど、時代の大きなうねりによって社会教育をめぐる環境は常に変わり続けています。この多様化する社会で、学校・地域・家庭そして企業が「つながる」ために、社会教育の果たしていく役割は一層大きくなったのではないのでしょうか。

このように常に変動しつづける社会のなかで、私たち社会教育委員は「提言書」の考え方にそって、市民主体の社会教育の場や堺市の施策の場に出向くことで、さまざまな形で「つながり」や「学びあい、教えあい」に気づき実感するとともに、さまざまな課題解決や要望の実現のために、場に応じ創意工夫に日々取り組まれている、生きた（成長し続ける）社会教育を新たに発掘することができました。

私たち社会教育委員は、これらの魅力的な活動の場を「ぶらり社会教育」として訪問し、気づき実感したことを多くの方々と分かちあうために「訪問記」として表し、堺市のホームページで発信するとともに、提言書自身も、時代とともに更新し、成長を続けるため実践報告書をまとめることとなりました。

この実践報告集の作成にあたり、地域等の課題解決や要望をいかに実現するのかということをつかりやすく伝えるため、時代に即した観点から、社会教育の新しい流れも盛り込みました。

また、私たち堺市社会教育委員会が「提言書」を広く知っていただくために主催したイベントや、本会議の協力により実施したイベント、行政等の取組もあわせて紹介しています。

今回、本実践報告集を作成するにあたり、社会教育を広く知っていただくという提言書の理念に対し、各種団体のご理解ご協力のもと、市民のみなさんの活動の場などを訪問させていただき、ご多忙の中、貴重なお時間をいただきご対応いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

この実践報告集を、市民のみなさんや各種団体の方々と共有することで、これからの堺、これからの日本、これからの世界、これからの地球のため、さらなる社会教育を作り出していただく気づきとなることを期待しています。

令和元年11月

堺市社会教育委員会

議長 餅木 哲郎



P1

はじめに

堺市社会教育委員会 議長 餅木 哲郎

第1章

実践報告集の概要

P 4・・・第1節 提言書のふり返し

P 5・・・第2節 実践報告集の目的

第2章

実践報告集の背景について

P 6・・・第1節 世界の動向

P 7・・・第2節 日本の動向

P 10・・・第3節 堺市の動向

第3章

「ぶらり社会教育 訪問記」

平成
29年度

社会教育委員による、各種団体の「つながり」の発見！

P 14・・・その一 「ふれあい親子フェスティバル」

-東浅香山校区まちづくり協議会-

P 16・・・その二 「関西矯正展バザー」

-堺市更生保護女性会-

P 18・・・その三 「石津っ子クラブ」

-浜寺石津校区まちづくり協議会・浜寺石津校区福祉委員会-

P 20・・・その四 「堺市PTA協議会 中央研修会」

-堺市PTA協議会-

P 22・・・その五 「いわき・さかい生徒会交流会」

-堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会-

- P24・・・その一 「夏休み親子茶会」
-堺市西地区保護司会-
- P26・・・その二 「いわき・さかいフレンドシップサークル（2018）」
-堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会-
- P28・・・その三 「校区美化活動」
-福田校区自治連合協議会・福田小学校PTA-
- P30・・・その四 「子ども食堂『こども夢くらぶ』」
-こども夢くらぶ-

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

第4章 堺市社会教育委員会議による実践

- P34・・・事例1 「学びあい・教えあいの場『社会教育フェスタ』」
-堺市社会教育委員会議・堺市教育委員会-
- P38・・・事例2 「親子で！みんなで！古墳を清掃！」
-堺市PTA協議会・堺市教育委員会-

第5章 行政等による「社会教育」の取組

- P44・・・事例1 「おもてなしトイレ（大仙公園）」
- P46・・・事例2 「堺市博物館」
- P48・・・事例3 「TALK★CAFE 高校生みらい議会」

資料編

- P51・・・堺市社会教育委員名簿
- P52・・・堺市社会教育委員会議審議経過
- P53・・・用語解説

第1章

実践報告集の概要

第1節 提言書のふり返し

平成29（2017）年6月、私たち堺市社会教育委員会議は、「つながり」がこれからの堺を変える～堺が考える社会教育～（提言書）（以下、「提言書」という。）を策定しました。

私たちは、そもそも「社会教育とは何か」という問いから、市民のみなさんの立場から見て、「私たちが社会教育をどのようなものとして理解すれば、自分たちが楽しくなる、成長できる、そして生活がより豊かになるのか」を考え、会議の活性化のスタートをきりました。

そして、策定した「提言書」の中で「堺の考える社会教育」として、以下の2点を提言しました。

提言(1)

社会教育への発想をきりかえてみましょう！

- これまでの「行政の立場から見た社会教育」の考え方に、「みなさんの立場からみた社会教育」の考え方を加えます。
- 社会教育を特別で難しいものと考えする必要はなく、**日々の活動**にも見つけることができます。
- 「私たちが社会教育をどのように理解すれば、私たち一人ひとりの生活がより豊かになるのか」と、日々の活動において考えてみましょう。

提言(2)

みんなで「つながり」を広げましょう！

- 日々の活動にある社会教育のなかでも、とりわけ、ともに学んだり、教えたりする「つながり」を広げていくことで、さまざまな課題が解決され、要望が満たされるなど、より豊かな生活を送ることができ、みなさんは**幸せを実感**することができると考えています。
- これまでは海を介した他の国々などとの「つながり」のなかで堺が発展してきました。これからは社会教育を介したみなさんの「つながり」のなかで、地域、そして堺がさらに発展していくものと考えています。

社会教育とは？

法律上、「社会教育」とは、「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。」（教育基本法第12条第1項）、「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。」（社会教育法第2条）と規定されています。

【「つながり」がこれからの堺を変える～堺が考える社会教育～（提言書）P5より】

提言書に詳しく記載しています！ P4 「一般に言う社会教育って？」

第2節 実践報告集の目的

「提言書」の中において、一般的な社会教育の概念に加え、一人ひとりが日々の生活の中で出会うさまざまな課題の解決などに向け、自分にあった形で学んでいると述べました。それが個人や各種団体など、形態はさまざまですが、それらの多くは、人と人との「つながり」のなかで、「ともに学んだり、教えたり」する関係が成り立っています。

つながることを通じて、みなさんが成長するとともに、みなさんの知識、能力、経験や存在が活かされ、人に認められ役に立つなどの喜びを感じ、また、人に支えられるという安心感も生まれます。その結果、さまざまな課題が解決され、要望が満たされるなど、より豊かな生活を送ることができ、みんなが幸せになると考えています。

そうすると、地域、そして堺が発展するとともに福祉が向上し（幸せが広がり）、また、このような「つながり」が全国、やがて世界にも広がるようになれば、「人類の福祉と平和」が実現し、「誰もが取り残されない、一人ひとりが幸せな社会」となると考えています。

このような「つながり」を、みなさんや各種団体と一緒に広げていくのが、社会教育委員会議の役割と考え、私たち社会教育委員は「つながり」拡大の仕掛け人として、堺の魅力ある社会教育の活性化に寄与したいと考えています。

社会教育委員会議は、何をするのかな？

○団体が日々取り組んでいる活動を訪問し、学びあい教えあいに気づき実感します。

○気づき実感したことを言葉や図などで表し、提言書などにまとめます。

○提言書などにまとめたことを分かち合う場を設け、呼びかける活動などを行います。

【「つながり」がこれからの堺を変える～堺が考える社会教育～(提言書)概要版より】

この実践報告集は、「提言書」策定からの2年間で、さまざまな主体が行っている社会教育活動の場への社会教育委員の訪問活動（ぶらり社会教育）の事例集を中心に構成しています。

堺で市民のみなさんやさまざまな各種団体が、日々取り組まれている「ともに学んだり、教えたりする」社会教育活動のなかにこそ「みなさんやそれぞれの地域の課題」を解決する要素があり、今回、実践事例集という形で、みなさんと広く分かち合うことで、

それぞれの抱える課題への解決につながるとともに、新たな社会教育活動への一助になればと考えています。



「つながり」がこれからの堺を変える～堺が考える社会教育～(提言書)
(平成29年6月策定)

左記の提言書は、堺市ホームページからご覧いただけます。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

第2章

実践報告集の背景について

実践報告集では、第3章以降でさまざまな社会教育活動を紹介していますが、社会教育について理解を深めるためには、法律に定める「社会教育」の概念や提言書の内容に加え、時代に即した観点を知ること大切だと考えます。

本章では、提言書を策定した平成29（2017）年以降の2年間を中心に、社会教育に関連した出来事を「世界」「日本」「堺市」の3つの観点からご紹介します。

第1節 世界の動向

1. 持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)

SDGsとは？

持続可能な開発目標（SDGs：エス・ディー・ジーズ）とは、平成12（2000）年の国連ミレニアムサミットで策定されたミレニアム開発目標（MDGs）が平成27（2015）年で終了することをうけ、同年9月、ニューヨークで開かれた国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなすもので、平成28（2016）年から令和12（2030）年までの15年間に、貧困や不平等・格差、気候変動、資源の枯渇、自然破壊などのさまざまな問題を根本的に解決し、私たちの世界をより良くすることをめざす、世界共通の17の目標です。

SDGsは、「2030年の世界のあるべき姿＝さまざまな課題が解決された、持続可能な社会」を実現するための17のゴール（目標）であり、その下に、169の具体的なターゲットと232の指標が定められています。

社会教育との関係

SDGsは、先進国と開発途上国がともに共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標であり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを明確に掲げています。SDGsは、私たちが地球でずっと暮らしていけるよう、国連や企業、有識者たちが知恵を寄せ合ってきたものですが、私たちが毎日の生活の中で取り組んでいる中でも、SDGsに深く関係しているものがあります。

社会教育でも、一人ひとりが日々の生活の中で出会うさまざまな課題の解決などに向け、自分にあった形で学んでいると思います。SDGsも同様に、今、私たちの世界が直面しているさまざまな問題を解決することをめざしており、誰もが取り残されない、一人ひとりが幸せな社会を実現するという目標は、社会教育においても共通する大事なことだと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



第2節 日本の動向

1. 地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正

改正概要

平成27（2015）年12月の中央教育審議会による答申（地域と学校の連携・協働）を受け、地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するため、改正社会教育法が平成29（2017）年4月1日から施行されました。

主な改正内容

- （1）「地域学校協働活動」に関する連携協力体制の整備
- （2）「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する規定を整備

社会教育との関係

地域社会全体で子どもたちの成長を支えるという目的のためには、幅広い地域住民や保護者等の参画により、地域と学校が連携・協働することで、多様化する社会に対して、社会総がかりでの教育を実現することが重要です。

提言書との関連 P7「堺の社会教育の目的、現状・課題及び効果」

2. 性犯罪を厳罰化する改正刑法

改正概要

平成29（2017）年6月、性犯罪に関する改正刑法が国会で可決・成立しました。今まで女性に限定されていた強姦罪（改正後の名称は強制性交等罪）の被害対象者が性別を問わない形となるなど、明治40（1907）年の刑法制定後110年ぶりに改定されました。

主な改正内容

- （1）強姦罪の強制性交等罪への変更
- （2）性犯罪の厳罰化
- （3）性犯罪の非親告罪化
- （4）監護者による子どもへの性的虐待を処罰
- （5）強盗強姦罪の構成要件の見直し

社会教育との関係

堺市では、人権課題の解決と国際平和の実現のため、「人権擁護都市」「非核平和都市」を宣言し、「堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例」を制定するなど、平和と人権を尊重するまちの実現を図ることをしています。同条例第3条において、「平和、人権等地球規模の課題について身近なことから積極的に取り組む」と規定し、日常における人権などの課題を意識し、取り組むことをみなさんの役割としています。

提言書との関連 P17 「堺らしい社会教育に関する歴史や文化」

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

3. 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)

概要

平成30(2018)年12月21日、中央教育審議会(中教審)は、同日開催された第120回総会において、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」をとりまとめました。

主な内容

(1) 今後の地域における社会教育の在り方

- ・地域における社会教育の意義と果たすべき役割～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～
- ・新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～

(2) 今後の社会教育施設の在り方

- ・今後の社会教育施設に求められる役割
- ・今後の社会教育施設の所管の在り方

社会教育との関係

地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりが重要です。人口減少、高齢化、グローバル化、つながりの希薄化など多様化する社会への対応として、SDGsに向けた取組等をはじめ、持続可能な社会づくりをすすめるため、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことの重要性や住民による社会教育活動を支援するため、行政による社会教育施設の有効活用が重要です。

提言書との関連 P21 「堺の豊富な社会教育的資源の活用」

4. 改正出入国管理及び難民認定法

概要

平成30(2018)年12月8日、特定の技能を有する外国人に新たな在留資格を与え、人手不足を解消すること等を目的とした改正出入国管理及び難民認定法が成立しました。

主な内容

日本での労働を希望する外国人を対象に、新たな在留資格を創設し、介護や外食業などの特定の単純労働分野で外国人労働者の受け入れを拡大するもの。新たに「特定技能1号」と「特定技能2号」という在留資格を設け、生産性の向上や日本人労働者の確保に取り組んでもなお人手が必要な分野で外国人の就労を認めるものです。

社会教育との関係

本法改正により、就労を目的に多くの外国人の来日が想定されます。就労する企業や住民として居住する地域社会で多くの接点が生まれることから、企業や地域社会において、お互いの文化や生活環境を尊重しながら共に生活できるよう、相互理解が大切になるのではないのでしょうか。

提言書との関連 P7 「堺の社会教育の目的、現状・課題及び効果」

5. 社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行について

概要

令和2（2020）年4月より、社会教育主事がNPOや企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育事業の企画・実施による地域住民の学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに中核的な役割を担うことができるよう、その職務遂行に必要な基礎的な資質・能力を養成するため、社会教育主事講習及び大学（短期大学を含む。）における社会教育主事養成課程の科目の改善を図るものです。

主な内容

社会教育主事講習及び養成課程の学習成果が社会で認知され、広く社会における教育活動に生かされるよう、講習の修了証書授与者が「社会教育士（講習）」、養成課程の修了者が「社会教育士（養成課程）」と称することができることとしています。

社会教育との関係

「社会教育士」は、都道府県及び市町村に配置される「社会教育主事」と異なり、教育委員会の発令を必要としません。

社会教育主事講習や養成課程の学習成果を活かし、社会教育行政のみならず、社会教育関係団体やNPO、企業等の多様な主体と連携・協働して、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待されます。

また、これらの活動に際しては、地域の実情等を踏まえ、社会教育士と社会教育主事との連携・協働が図られることが期待されます。

提言書との関連 P21 「堺の豊富な社会教育的資源の活用」

6. 民法の一部を改正する法律(成年年齢関係)について

概要

平成30（2018）年6月13日、民法の成年年齢を20歳から18歳に引き下げることを内容とする民法の一部を改正する法律が成立しました。（令和3（2022）年4月1日施行）

民法の定める成年年齢は、明治29（1896）年に民法が制定されて以来、20歳と定められてきました。成年年齢の見直しは、明治9（1876）年の太政官布告以来、約140年ぶりとなります。

主な内容

- （1）成年年齢の引き下げ（民法第4条） 20歳から18歳に引き下げ
- （2）女性の婚姻開始年齢の引上げ（民法第731条）婚姻開始年齢は男女とも18歳に統一

社会教育との関係

18歳、19歳の若者が自らの判断によって人生を選択することができる環境が整備されることで、積極的な社会参加を促し、社会を活力あるものにする意義を有するものと考えられます。

提言書との関連 P13「堺らしい社会教育と社会教育資本へ焦点をあてて」

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

第3節 堺市の動向

1. 堺セーフシティ・プログラムの取組について

概要

UN Women（ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関）が取り組むセーフシティーズ・グローバル・イニシアティブは、世界に呼びかけ、安全な都市空間の形成を目的として「公的空間」における女性と女兒に対する性暴力やセクシュアルハラスメントを防止し、減少させる有効な対策を構築し、最終的には、世界各都市にそのモデルの提供を行う取組です。

堺市では、平成25（2013）年12月、先進国で2番目、国内では初めて参加を表明し、「堺セーフシティ・プログラム」として取り組んでいます。

主な内容

「堺セーフシティ・プログラム」では、平成25（2015）年から令和元（2019）年までの5年計画です。5年後に想定される堺のまちの姿を実現するための指針が示されています。

- （1）ハード面における安全・安心な生活環境の確保
- （2）性暴力被害者支援に係る関連機関の連携強化・性犯罪の顕在化
- （3）性暴力の被害者にも加害者にもならない当事者意識の啓発
- （4）安全・安心を支える市民意識の醸成と市民参加の強化

社会教育との関係

克服すべき重要な社会課題である「女性に対するあらゆる暴力の根絶」におけた気運が高まることで、「すべての人にとって安全安心なまち堺」につながります。

提言書との関連 P17「堺らしい社会教育に関する歴史や文化」

2. 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の登録へ

概要

百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の最盛期（4世紀後半から5世紀後半）にかけて築造された、古代日本列島の王たちの墓群です。

主な内容

令和元（2019）年5月14日、世界遺産委員会の諮問機関であるイコモス（ICOMOS）により、「百舌鳥・古市古墳群」を世界遺産に登録するよう勧告がありました。今後は、第43回世界遺産委員会（令和元（2019）年6月30日～7月10日、アゼルバイジャンで開催）において、令和元（2019）年7月6日、世界遺産に登録されました。

社会教育との関係

「百舌鳥・古市古墳群」という地域が誇る文化遺産を、みなさんが大事に思い、後世に伝えていくことや、世界の人々に発信していくことで、私たち相互のつながりが深まることが、文化を介した社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の広がりや深まりの進展に他なりません。

提言書との関連 P21「堺の豊富な社会教育的資源の活用」

3. 堺茶の湯まちづくり条例

概要

中世、堺では世界に開かれた貿易都市として発展を遂げるとともに、町衆が納める自由・自治都市として繁栄し、進取の気風に満ちあふれていました。その中で、今井宗久、津田宗及、千利休等の多くのすぐれた茶人が生まれ、なかでも、千利休は、わび茶を大成し、茶の湯におおきな足跡を残しました。

また、堺では、現代においても市民、事業者等によってさまざまな茶会が催されるなど、堺では茶の湯を楽しむ文化が受け継がれています。茶の湯を楽しむ文化が大切に育まれてきた堺を誇りに思うとともに、これを次世代に引き継ぐため、茶の湯の文化が息づくまちをめざすことを目的に本条例が制定されました。（平成30（2018）年10月1日施行）

主要内容

本条例は、堺市、市民等及び事業者が連携及び協力をし、本市において茶の湯文化を振興することにより、市民の豊かな心の醸成及び都市魅力の向上に寄与することを目的としています。

社会教育との関係

茶の湯において重んじられている、互いに敬い、思いやりの心を持ち、ふれあいの時間及び空間を大切にする「和敬清寂」や「一期一会」の精神には、社会教育が息づいています。

提言書との関連 P17「堺らしい社会教育に関する歴史や文化」

4. ダナン市（ベトナム社会主義共和国）との友好都市提携

概要

堺市では、ダナン市（ベトナム社会主義共和国）との交流をさらに広範なものとし、相互の理解と友好親善を深め、両市の一層の発展と持続可能な社会構築のため、平成31（2019）年2月に友好都市提携が結ばれました。

主要内容

ベトナム中部の大都市であるダナン市とは、在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館が堺市に移転開設された平成21（2009）年から交流が始まりました。これ以降、同年に市政120周年を記念して開催した「堺・アセアンウィーク」において、ダナン外国語大学で日本語を学ぶ学生たちが民間大使として来堺し、児童や学生たちと交流する民間大使プログラムが続いており、また、近年では、現地で開催される「ダナン越日文化交流フェスティバル」に茶の湯などの民間団体が毎年参加するなど、交流を重ねてきました。

社会教育との関係

堺は、中世、「ベニス（イタリアの自由都市）のごとし」と言われ、海を越えて広く国外に知られていました。海を介して海外の知識や技術などを堺につなげたのは、過去の堺の人々であり、社会教育を介して「つながる」これからの多様性を持った社会の主役は、現在のみなさんです。

提言書との関連 P24「堺らしい社会教育の持続的発展に寄与する社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）」

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

5. SDGs未来都市・堺

概要

「SDGs未来都市」とは、平成27（2015）年9月に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向け、内閣総理大臣を本部長とする「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」において、新たに創設されたものです。

堺市は、「SDGs未来都市」として選定する国の公募に対して、平成30（2018）年3月、人口減少や高齢化などの地域課題解決をめざす提案を行い、同年6月に「SDGs未来都市」に選定されました。

主な内容

堺には、自分たちでまちを治め、平和を守り、国際的な交流により繁栄を築いた「自由と自治」の精神が脈々と受け継がれています。悠久の歴史に根差す、この「自由と自治」の精神を礎に本市が推進する「堺・3つの挑戦」をはじめとする取組は、持続可能な社会の実現をめざすSDGs推進の方向性と合致しています。

（1）堺・3つの挑戦に関する取組み（堺市マスタープラン）

○子育てのまち堺・命のつながりへの挑戦！

○歴史文化のまち堺・魅力創造への挑戦！

○匠の技が生きるまち堺・低炭素社会への挑戦！

（2）市民が安心、元気なまちづくり

（3）都市内分権の推進

社会教育との関係

SDGsは、私たちの世界が直面している様々な問題を解決することをめざしています。堺市においても、学校、家庭、地域や職場において、また、私たちや私たちの家族、友人、地域に暮らす人々など、社会や個人が直面するさまざまな課題への解決のためには、私たち一人ひとりが考え、取り組むことがとても大切です。

堺市社会教育委員会議が策定した「提言書」の中で、みなさんが日々行っている様々な活動こそが社会教育であると捉え、豊かな「つながり」をみんなで広げることによって、誰一人取り残されない社会の実現を提言しています。

SDGsも同様に、日々の活動のなかで既に取り組んでいることにも関係しており、日々の活動を社会教育の観点から見つめ直すだけでなく、SDGsの取組としても捉えなおすことができます。

みなさんの日々の活動そのものが、社会教育のみならず、SDGsから見ても素晴らしいものだ気づき、その活動を通してそれぞれが表わし分かちあい、ともに学んだり、教えたりすることで誰一人取り残さない社会の実現を掲げるSDGsの理念に「つながる」ものと考えています。

社会教育への発想をきりかえてみましょう！

みなさんが日々行っている活動のなかにも、「社会教育」の要素があったんだ！

- 社会教育は、これまでの「行政の立場から見た社会教育」だけではなく、みなさんが日々行っている活動にも見つけることができます。
- 堺市社会教育委員会では、みなさんや各種団体の魅力的な活動を知るために平成28（2016）年度より「ぶらり社会教育」という訪問活動を行っています。
- 「提言書」（P15）において、意識したことを広く、分かりやすく相手に表現し広く相互に理解し共有する過程にも社会教育があるとしており、これらの訪問活動を「ぶらり社会教育訪問記」として表しました。
- 本実践報告集では、堺市ホームページに掲載しているもののうち、提言書策定後の平成29（2017）・30（2018）年度の訪問記をダイジェスト版として、まとめなおし、SDGsとの関連性も踏まえ、みなさんにご紹介します。

提言(1)

社会教育への発想をきりかえてみましょう！

提言書のポイントです！

- これまでの「行政の立場から見た社会教育」の考え方に、「みなさんの立場からみた社会教育」の考え方を加えます。
- 社会教育を特別で難しいものと考えする必要はなく、日々の活動にも見つけることができます。
- 「私たちが社会教育をどのように理解すれば、私たち一人ひとりの生活がより豊かになるのか」と、日々の活動において考えてみましょう。

■社会教育委員会議の活動や提言書については、堺市ホームページで公開しています。





その一

ふれあい親子フェスティバル

東浅香山校区まちづくり協議会

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 幼稚園～大学や企業がイベントに参加し、全世代に対する訴求力があります。
- ポイント2 さまざまな学び、体験、試食や軽食が無料で提供され、誰もが参加できます。
- ポイント3 学校が企業、大学や女性団体などの外部とつながっています。

全全全世代 のまちづくり



活動の 概 要

ふれあい親子フェスティバルは、東浅香山校区の「全全全世代のまちづくり」をめざすものです。

小学校、地域、そして企業や大学の連携によって、企業や地域のさまざまな団体による試食や軽食コーナーや各種遊びや学びに関する多くのブースが無料で利用できるようになっており、一人ひとりの人権を尊重し誰もが参加できるような工夫がなされている取り組みです。



ここが 面白い

全世代が興味を持てるよう、広い体育館や校舎を利用して、地元企業による高齢者相談コーナー、地元スーパーマーケットによるキッズマート、大阪工業大学によるロボット体験、地域団体による軽食コーナーなど、さまざまな担い手による取組がありました。また、地域に開かれた小学校を活用し、幼児や児童の作品、中学生の吹奏楽技術などさまざまな物事を活用していました。



訪 問 日：平成29（2017）年10月21日（土曜）

訪問委員：林 美輝副議長、鶴山 剛委員（紹介者として、山口 典子委員）

訪問場所：堺市立東浅香山小学校

つながりがここに ある

地域の協力と校長のリーダーシップによって、学校が企業、大学や女性団体などの外部とつながっています。

浅香山小学校の合唱、東浅香山こども園のダンス、長尾中学校吹奏楽部の演奏など、子どもたちだけでなく、その保護者や祖父母世代の来場もあるため、全世代がつながりやすいイベントになっています。

高齢者世代にとっても、介護事業者による高齢者相談コーナーがあり、社会的資源（ふれあい喫茶など）とつながりやすくなっています。



つながる といいな

近隣の関西大学に体育系の学部があるので、運動的なイベントも取り入れて一緒に実施したり、その他留学生などが多くいる大学や、介護事業施設などで外国から来ている介護福祉士候補者の力を借りて多様な世代が交流できるような国際交流や、このイベントで楽しんだ児童が中学校・高校へと進んでいくので、そんなOB・OGたちが活躍する場があったらいいかもしれません。子どもたちにとって直接憧れを抱ける先輩が身近にいることは、次につながっていくのではないのでしょうか。

主催者のメッセージ

私たちは、ふれあい親子フェスティバルを通じて、同じ地域で暮らすあらゆる世代の方々の「つながり」を広げる役目を果たしています。「つながり」を広げるとは、まずたくさんの人と知り合って交流を深めること、そして困ったときには共に助け合って支えあう関係を築くことであると考えます。災害など有事の際には、地域の「つながり」が非常に大切になってくると思います。

SDGsとの関連性



「東浅香山校区まちづくり協議会」とは

東浅香山校区まちづくり協議会は、自主的な組織活動団体としての本旨をふまえ、校区内における各種団体間の相互の親睦と連携を図り、地域的な活動を行うことにより、地域の課題を自らで主体的・自己完結的に解決を図るよう努めるとともに、良好な地域社会の形成及び維持に寄与することを目的とする市民団体です。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その二

関西矯正展バザー

堺市更生保護女性会

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 バザーの商品は、主に堺市更生保護女性会の会員から無償で提供されています。
- ポイント2 日頃訪れる機会のない大阪刑務所について理解を深めることができます。
- ポイント3 バザー収益金の一部を、矯正施設への協力金や子育て支援などに活用されています。

平和と人権を
尊重する
共生社会の実現へ



活動の 概要

年に一度、2日間にわたる大阪刑務所の関西矯正展において、堺市更生保護女性会の幹部及び会員メンバーが携わって行うバザーです。

バザーの商品は、主として堺市更生保護女性会のメンバーから無償で提供されたものです。収益金の一部は、堺市更生保護女性会の活動資金に充てられています。



ここが 面白い

バザーを行うことは、会員自身の意識にも少なからず影響を与えていると感じました。まず、バザーの商品は、主に会員から無償で提供されるもので成り立っており、平成29（2017）年のバザーでの商品数は、約3,000点にものぼることでした。バザーの収益金の一部は、矯正施設に協力金として届けたり、また、お花を届けたり、材料を持参し夕食を作りに行ったりする活動や地域の子育て支援活動などにも充てられるとのことでした。

訪 問 日：平成29（2017）年11月12日（日曜）

訪問委員：佐伯 知子委員、原 明美委員（紹介者として、服部 節子委員）

訪問場所：大阪刑務所

つながりがここに ある

バザーの運営スタッフ（できるだけ多くの会員に手伝ってもらっているそうです）がそれらに値段をつけて売りますが、その際、提供者に感謝する姿、商品一つひとつに込められた思いをやり取りしつつ丁寧に扱う姿が見られました。

堺市外からも多くの来場者がある関西矯正展でバザーを行うことは、会議で言葉だけのやり取りをする活動、また地域内にとどまりがちな活動から一歩踏み出し、更生保護活動についての理解を広げる機会になるということでした。現に各自治体の関係者はもとより一般の来場者の方からも「頑張ってください」など、さまざまなお声掛けがあるそうです。



つながるといいな

堺市更生保護女性会にとって関西矯正展への出店は、一般市民や他の団体との「つながり」を広げる機会であるとともに、会内部の結びつきを強める機会にもなっていることがとても印象的でした。

関西矯正展への出店に際し、会員の方々が生き生きと作業を行っている活動の光景が印象深く、また堺市更生保護女性会が今後も活動するにあたり、「つながり」を深め、広げるためのイベントだと強く感じました。



主催者のメッセージ

刑務所でのバザーは堺市更生保護女性会の私たちにとって最も大切に大きな行事になっています。

会員は、女性ばかりですが、女性が動くことにより、男性も協力してくれることが多々あり、支援を必要とする方をほっとけないという思いからこの活動への理解や協力が生じていると考えます。

SDGsとの関連性



「堺市更生保護女性会」とは

昭和40（1965）年4月、堺地区更生保護婦人会として発足しました。同年7月、保護司とともに「社会を明るくする運動」に参加し、更生保護団体としてスタートしました。

堺市更生保護女性会は、地域社会から犯罪や非行をなくし、過ちに陥った人々の立ち直りを支援する全国組織の女性ボランティアの団体です。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その三

石津っ子クラブ

浜寺石津校区まちづくり協議会
浜寺石津校区福祉委員会

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 元教員や元保育士、塾指導者、更生保護女性会など様々な担い手があります。
- ポイント2 西図書館の定期貸出制度や子ども食堂にはフードバンクを活用しています。
- ポイント3 地域会館を活用しており、近くに公園もあるなど空間を活用しています。

さまざまな資源を
懸命に探し
子ども達の居場所を
確保しています。



活動の 概要

【石津っ子クラブ】

浜寺石津校区の小中学生を対象とし、平成29（2017）年7月12日から、毎週水曜日14時から18時までの間に、遊びや読書、宿題などを行う居場所として開催しています。子どもの定員は50名で無料です。（登録制）平成29（2017）年11月時点では、小学校1～6年生が利用しています。地域のボランティアが宿題支援などを行っており、保護者の参加も歓迎しています。なお、帰宅時には保護者のお迎えをお願いしています。

【石津ミニ子ども図書館】

保護者の方々からの要望による石津っ子クラブに併設した小規模な私立図書館です。図書は、補助金や寄付金による購入のほか、西図書館からの定期的な貸出図書制度を活用しています。

【石津っ子食堂】

15時から実施し、100円で軽食を提供している子ども食堂です。石津っ子クラブに登録していなくても、利用可能です。



訪 問 日：平成29（2017）年11月22日（水）

訪問委員：田間 泰子委員、服部 節子委員（主催者として、浅野 勲委員）

訪問場所：浜寺石津校区地域会館、浜寺石津校区コミュニティーホール

ここが 面白い

居場所を作るには多くの物が必要ですが、図書は西図書館からの定期貸出制度を活用し、ミニ図書館の本棚はボランティアの手作りです。子ども食堂の食材にはフードバンクも活用しています。地域内外に存在する人や物のさまざまな資源を懸命に探しつながら、子どもたちの居場所が支えられています。

つながり がここに ある

地域を支えるさまざまな市民団体とつながっていることが大きな強みです。加えて、石津っ子クラブでの学習支援のために、元教員、保育士、塾指導者、更生保護女性会、町会長等の方々から成るボランティアを当番制で確保できています。



子どもたちは、石津っ子クラブや石津っ子食堂で出会う大人と、日常の地域のなかで再会し、言葉を掛けあうことができる。これは、地域の市民による活動にしかできない「つながり」です。

つながる といいな

西区の一番西側には臨海工業地帯があります。今後、地元や市内の企業や商工会議所などにつながって、CSR（企業における社会貢献）と地域振興という観点から支援を受けることができるのではないのでしょうか。学校卒業後の就労について、子どもたちには、学ぶ機会も得られると思います



主催者のメッセージ

今までは、他の団体の取り組みに積極的に目を向けることなく、それぞれが熱心に取り組み、各々の成果をあげる努力をしてきました。今後は、各種団体が手を組み、「つながって」活動をすれば、今まで以上の成果を上げることができると考えています。連合町会の各種団体が、「石津は一つ」を合言葉に、「つながり」の輪を広げて賑わいのある、安心・安全な街づくりをすることであると思います。

SDGs との関連性



「浜寺石津校区まちづくり協議会」とは

平成24（2012）年12月に発足した市民団体です。校区内における各種団体間の相互の親睦と連携を図り、地域的な活動を行うことにより、地域の課題を自らで主体的・自己完結的に解決を図るよう努めるとともに、良好な地域社会の形成及び維持に寄与することを目的としています。

西区まちづくり協議会による平成29年度の補助金を獲得し、石津っ子クラブを設立しました。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その四

堺市PTA協議会 中央研修会

堺市PTA協議会

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 アンケートで講演内容などを決めるなど、会員のニーズを集約しています。
- ポイント2 堺市PTA協議会の役員をはじめOB・OGの支援で研修会が運営されています。
- ポイント3 ホームページで、研修会に参加されなかった方々への情報提供をしています。

全ての

PTA会員と

つながる



活動の 概要

堺市立の幼小中高149校園のPTAから、それぞれ5名ほどの会員のみなさんが集まり、映画字幕翻訳家の戸田奈津子さんの講演を聴き、学びを持ち帰るという企画です。

当日は、800人の会場に立ち見の方もいる盛況ぶりでした。開会に続き、全員で歌う堺市PTA協議会の歌があり、会長と市長のご挨拶がありました。

講演「夢を追いかけて」は、苦しい戦時中の生活、文化（映画）に心を奪われたこと、女性であるが故に望んだ仕事になかなか就けなかったこと、一流の映画人に学んだ子育てと教育に関わる大きな示唆など、実に充実した内容でした。

ここが 面白い

講演内容は、子育てをしている保護者が共通して興味のあるものとしているそうです。今回の講演「夢を追いかけて」は、子どもの時の夢を持ち続け、映画監督として実現させたジョージ・ルーカスなどを例に、子どもの芽を摘まないことについて共有できるものでした。そのため、終了後に参加した会員が未就学児の保護者やOB・OGの保護者との子育ての話題のひとつとして話しあい、つながるきっかけとなっているそうです。

訪問日:平成29(2017)年11月25日(土曜)

訪問委員:餅木 哲郎議長、浅野 勲委員(主催者として、原 明美委員)

訪問場所:堺市産業振興センター

つながりがここに ある

研修会で実施するアンケート調査を基に、会員のニーズを把握し、次年度のテーマや講演内容を決めているそうです。会員全員を対象とした研修会の内容の一部の人が決めるのではなく、たくさんの会員のニーズを集約しています。PTAとしての進むべき道を役員と会員がともに探し、一年に一度の研修会のなかで共有し、また次年度に向けて探し続けます。



つながる といいな

子どもたちの成長過程として最も重要な期間に関わる方々でありながら、幼稚園から高等学校までという長いスパンと環境の違いがある参加者のみなさんがこの講演をお聴きになって“子どもの芽を摘まないこと”の重要性を共有しつつも個々(世代間ごと)の捉え方には、多分かなりの差異があっただろうと感じました。各ロット(幼・小・中・高)毎の段階的見解を分析すれば素晴らしいデータができ、「つながり」の代表例になることでしょう。



また、各校区の自治会や福祉委員会、子ども食堂、こども会活動、CSR(企業における社会貢献)などへのつながりが考えられます。

主催者のメッセージ

人と人との「つながり」、そして学びあうことが社会教育ではないでしょうか。

各单位PTAの活動が、堺市PTA協議会を通して、他の単位PTAの活動や個人の学びになることが「つながり」を広げることになると思います。

SDGsとの関連性



「堺市PTA協議会」とは

堺市PTA協議会は、堺市立学校園PTA及びこれに類する団体をもって組織された任意団体です。各学校園PTA相互の連絡協調に努め、本市PTAの健全な発展を図ることを目的としています。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その五

いわき・さかい生徒会交流会

堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 交流会をとおして、学年、世代、そして地域の異なる人たちと分かち合えました。
- ポイント2 フィールドワークにより生徒たちが学校の枠を超えて活動できました。
- ポイント3 伝統産業をテーマとすることで、堺を知り、また知ってもらうことができました。

堺の魅力を知り

次代を担う若者が

学び表す



活動の 概要

堺市では、これまで「堺市被災者支援交流事業」をはじめ、いわき市の子どもたちとのスポーツを通じた交流を行ってきました。

今回は、上記の交流を発展させ、いわき市の「いわき生徒会長サミット事業」の取組のなかで、堺市を訪問してくるいわき市と堺市の中学生の生徒会代表者が、堺市の産業や文化と一緒に学ぶ交流会です。

【1日目（12月25日）】

歓迎会と、各生徒会活動に関するプレゼンテーション。

【2日目（12月26日）】

両市の生徒混合で6つの班に分かれて、堺の産業・文化と一緒に学ぶために、「堺を支え、堺を守り、堺を育てる」人々を訪問し、フィールドワークを実施しました。

学んだことをもとに、他の生徒や参加した教職員その他関係する市職員等の前でプレゼンテーションを行いました。

訪問日：平成29（2017）年12月26日（火曜）

訪問委員：林 美輝副議長、山口 典子委員（主催者として、鶴山 剛委員）

訪問場所：堺市立堺高等学校

ここが 面白い

日頃、出会う機会が少ない他地域や他校の生徒会などで活躍している人々とフィールドワークやプレゼンテーションをともにすることで、他の生徒の考え方を知るなど貴重な学びの機会があると思います。

つながり がここに ある

これからの堺を支える中学生がいわき・さかい生徒会交流会の「担い手」となり、包丁、線香、染物、敷物、鷹の爪を作る伝統産業を活用し、堺への愛着を醸成することができていました。



つながる といいな

当日、主催者から伺った話のひとつに「安心して自分をさらけ出す」ということの大切さに関するものがありました。残念ながら通常の学校生活においては、同調圧力が強く自分自身の思いや考えを表現したりすることがはばかれる場合もあるのだと思います。今回のような場づくりがさらに広がればと思いました。



主催者のメッセージ

生徒たちが学校の枠を超えて活動していく機会に恵まれ、そのなかで自分らしさを発揮し自分たちの良さを膨らませていく。それこそが学校教育が社会教育につながっていく姿だと考えます。堺市では全中学校生徒会が参加する「代表者のつどい」があり、それを元に取り組んだのが「いわき・さかい生徒会交流会」でした。

SDGsとの関連性



4 質の高い教育を
みんなに



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナシップで
目標を達成しよう

「堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会」とは

「堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会」は、堺市のすべての教員が参加する研究会のうち、生徒会に関わる部会です。（※現在、第Ⅱ部会は活動していません。）

目次

第1章

第2章

第3章

平成 29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成 30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その一

夏休み親子茶会

堺市西地区保護司会 （協賛） 南宗寺

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 「和敬清寂」の精神を学ぶことができました。
- ポイント2 さまざまな年代が茶会で交流し、茶の作法を学ぶことができました。
- ポイント3 南宗寺にあるさまざまな歴史を分かちあうことができる機会でした。

堺の歴史・文化の なかに息づく 「和敬清寂」の精神



活動の 概 要

夏休み親子茶会は、堺市西地区保護司会が、南宗寺の協賛・協力のもと、地域の子どもそして保護者が、同寺にある歴史・文化的遺産にもふれるとともに、老師や関係者からお話を聞き、お茶や礼儀の作法、そしてその精神などについて学ぶ集まりです。同会への参加は、事前申込みで、午前・午後の部それぞれ先着80名となっています。また、大まかな流れは次のようになっています。

1. 南宗寺 田島 碩應（せきおう）老師のお話
2. お辞儀の仕方についての講義
3. 茶の湯の体験
4. 堺観光ボランティア協会の方々のガイドによる境内の文化財見学

○堺市西地区保護司会からの補助。

○参加費用は小中学生500円、大人1,000円。



つながり の発展性

数々の歴史や史実を持つ南宗寺にお茶席が設けられているということに最高の堺らしさが表わされていると思います。すでに実施している中学校の体験活動の機会提供についてもさらに継続し、深めていくことや、親子以外の一般参加もさらに進めていくことで、堺らしい「つながり」を一層深めて行くことができると思いました。

訪問日：平成30（2018）年7月21日（土曜）

訪問委員：林 美輝副議長、服部 節子委員

訪問場所：南宗寺

活動のキーパーソンからお話を伺いました



小倉孝雄さん
(堺市西区保護司会会長)

平成28年(2016)から社会を明るくする運動の一環としてこの茶会を実施しています。

お茶に関しては「和敬清寂」の精神で、おもてなしをする側、そしてされる側ともに敬いながら仲良くなるための道具としてもお茶は考えることができるとお話をいただきました。



田島碩應さん
(南宗寺老師)

お茶にこれまで縁のなかった方にも来ていただき、お茶の体験を通じて、人が自分のためだけに生きているのではないことなどについて考える機会になればというお話を聞かせていただきました。



奥中佳代子さん
(堺西区保護司会常務理事)

元々はPTAで活動され、お仕事で縁となり保護司になられました。それまでは個人でされていた裏千家のお茶の活動を、保護司会との連携のもとで平成28年から実施することになったそうです。

当日の主催者側スタッフの多くは奥中さんの呼びかけに応じて参加されています。

主催者のメッセージ

犯罪や非行に走った人は支えてもらうチャンスが有っていいのに・・・など深い事情を抱えていたりします。その時、両親や学校の先生、近所のおちゃんやおばちゃんの顔が思い浮かばなかった事が欠けていたのかもしれませんが。日常生活の中で人と人が触れ合いつながり、助け助けられ社会の一員であることを自覚できる場をつくる事が大切だと思います。

SDGsとの関連性



「堺市西地区保護司会」とは

堺市西地区保護司会は、犯罪をした人々が地域で更生するための支援や、犯罪の予防のための啓発活動を行うことを使命とした保護司の地区団体です。同地区保護司会は、南宗寺との協力のもと、堺らしい茶の文化を地域密着型の活動を取り入れながら、これらの使命を果たしてきています。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その二

いわき・さかい

フレンドシップサークル(2018)

堺市中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 堺市の未来を担う中学生たちが主体的に事業を実施していました。
- ポイント2 中学生たちが、堺市やいわき市の魅力を見つけることができました
- ポイント3 他市の中学生と協働することで、学びの再発見や友愛の醸成につながりました。

堺市といわき市の 中学生がともに 学びあい・教えあい



活動の 概要

いわき・さかいフレンドシップサークル(2018)の活動は、市議会に届いた一市民の声から平成27(2015)年に始まった「堺市被災者支援交流事業」の一つとして、東日本大震災で被災した福島県いわき市の子どもたちを堺市に招待して元気になってもらうことを目的に行われました。

○以下の日程で開催されました。

【8月18日(土)】 堺市内見学(さかい利晶の杜、仁徳天皇陵)

【8月19日(日)】 堺市中学校生徒会役員との交流

(堺ブレイザーズによるバレーボール体験等)

【8月20(月)、21日(火)】 堺市立中学校第57回生徒会代表者のつどい
(分科会、キャンプファイヤーなど)

中学校第57回生徒会代表者のつどいは『思慮を巡らし高みへ導け～平成最後の生徒会～』をメインテーマに分科会と全体会が開催されていました。

予算については、堺市立学校生徒指導研究協議会より、生徒活動リーダー養成宿泊指導業務として175万円の委託を受け運営を行っています。なお、いわき市からの参加者には、堺市被災者支援交流事業から参加にかかる費用の支出が行われています。



訪 問 日：平成30（2018）年8月21日（火曜）

訪問委員：餅木 哲郎議長、服部 節子委員（主催者として、鶴山 剛委員）

訪問場所：大阪府立少年自然の家

つながりの 発展性

いわき市の中学生と堺市の中学生が、宿泊をともにしてさまざまな課題達成の活動に一緒に取り組むというものでした。いわき・さかいフレンドシップサークルは、昭和38年に始まり今年度で57回目となった「堺市中学校生徒会のつどい」を拡大した取組で、いわき市から18人、堺市から200人ほどの中学校の生徒会役員が集っていました。

思春期を迎えた子どもたちにとってモデルとなる大人・先輩あるいは友人との出会いは、何にもまして代えがたい宝物となります。そのためにも、学校の枠を超えた様々な機会を、社会教育の立場から提供できると新しい出会いや「つながり」ができるのではないかと思います。



活動のキーパーソンからお話を伺いました

堺市中学校教育研究会 特別活動部会の教職員のみなさん

代表部長である校長先生の統括のもと、生徒会部会の運営委員の教員と若手の教員がプログラムを考え、準備、運営に当たっておられました。先生方は指導者でありながらも生徒を尊重するファシリテーター（促進者）であり、時には生徒と対等なプレーヤーとして楽しさをつくっておられました。

堺市立中学校 第57回 生徒会代表者のつどい

メインテーマ

『思慮を深らし高みへ導け～平成最後の生徒会～』

- | | |
|-------|-----------------|
| ○A分科会 | リーダー会議 |
| ○B分科会 | 発表するぞ |
| ○C分科会 | ディベートしよう！ |
| ○D分科会 | 新聞を作ろう！ |
| ○E分科会 | よさこいやチアを学ぼう |
| ○F分科会 | キャンプファイヤーを主催しよう |

日時 2018年8月20日（月）・21日（火）

場所 大阪府貝塚市 大阪府立少年自然の家

主催 堺市中学校教育研究会
特活第Ⅲ（生徒会）部会

主催者のメッセージ

子どもたちの横の広がりをつなげる場が、堺市では生徒会活動として認知されてきていると自負します。加えて、世代を超える縦のつながりを作り出していける場が社会教育にあると感じています。子どもたちの新しい社会参画の場も生まれるのではないかと考えます。

SDGsとの関連性



「堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会」とは

「堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会」は、堺市のすべての教員が参加する研究会のうち、生徒会に関わる部会です。（※現在、第Ⅱ部会は活動していません。）

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その三

校区美化活動

福田校区自治連合協議会・福田小学校PTA

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 この清掃活動は21もの団体が参加している地域の一大イベントです。
- ポイント2 小学校の日曜参観に組み込むことで、教職員や保護者、児童も参加できました。
- ポイント3 清掃活動をととして、自治会やPTA活動に触れ合う機会となりました。

学校、地域、PTA

協働・創意工夫で

一大イベントに



活動の 概要

福田校区自治連合協議会による「校区美化活動」、および福田小学校による日曜参観を兼ねた清掃活動です。

「校区美化活動」は、6月と11月の年2回行っており、そのうちの一回です。
また、あわせて放置自転車を発見した場合、市に報告したり、電柱への「張り紙」「簡易立て看板」の撤去も行っています。

予算については、自治連合協議会の環境美化活動費として、年2回分4万5千円ほどの予算額を計上しています。



訪 問 日：平成30（2018）年11月18日（日曜）

訪問委員：田間 泰子委員（主催者として、植木 聡委員）

訪問場所：福田地区会館周辺・福田小学校

つながりの 発展性



参加人数が多いことの他、少人数のチームで区域を分担して丹念に見て回るなどの組織的な工夫と、美化活動を始めて10年、20年という蓄積によって地域をよく見てよく知るといふ、地域への関心の醸成が行われており、美化という活動目的を超えた地域の「つながり」、地域への愛着が作られていると感じました。

男女にかかわらず、フルタイムで働く保護者は地域や学校に関わりづらいですが、今回の企画は、「普段は忙しいけれども、もっと地域や学校とつながりたい」と思っている方々にとって、機会創出につながる、とても良い機会だったと思いました。

活動のキーパーソンからお話を伺いました

岸田 勝夫さん（福田校区自治連合協議会会長）

中野 已左夫さん（福田校区自治連合協議会事務局長）

20年以上続いている地域の清掃活動で、初めのころは参加団体も少なかったけれども、今では21もの団体が参加されている地域の一大イベントです。自分の住んでいる町を清掃しながら、お互いにコミュニケーションがとれます。地域を美しくという目的の他、地域を知る、地域を守ることもできていると思います。横のつながりが強くなればという思いがあります。

和田 正 先生（福田小学校校長）

常日頃から地域活動に参加するように、児童たちに呼びかけています。普段、登下校の見守りなどでお世話になっているので、地域の方に少しでも恩返しができるという思いです。今回、地域の清掃活動の日に日曜参観をあわせることで、よりたくさんの児童や保護者が、地域の方々に感謝しながら一体感を持って、清掃できる良い機会になったと思います。

主催者のメッセージ



社会教育と聞くと何か難しく物事を考えがちですが、今回の校区美化活動で言えば、保護者同士の交流や、自分の住む地域の清掃活動に参加することで、私たち大人が気づき、学ぶことが社会教育だと考えます。何気ない会話の中でも、「そうなんだ!」と思えることが一つでもあれば、参加した意味があると思います。

SDGsとの関連性



「福田校区自治連合協議会」とは

福田校区内における複数の自治会の意見調整や、校区内に共通する地域の問題解決を図っています。また、区役所と協働を深め、さらに地域住民とともに明るく住みよい安全なまちづくりを進めています。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

その四

子ども食堂 こども夢くらぶ

こども夢くらぶ

ここが魅力的な
社会教育活動のポイントです！

- ポイント1 活動場所が老人会集会所を利用し、地域の方にも馴染みの場所です。
- ポイント2 白鷺団地内で車の往来ない場所なので、子どもたちが安心して遊べます。
- ポイント3 地域の高齢者や大阪府立大学からボランティアが参画し、「つながっています」

子ども食堂は 子どもだけではなく 地域全体の居場所



活動の 概要

「子ども食堂 こども夢くらぶ」は堺市東区ではじめての子ども食堂です。白鷺校区を中心として、校区の子どもたちを対象にしらさぎ夢テラスなどで月2回（第2・4土曜日）活動を行っています。

活動内容は次のようになっています。

1. 昼食の提供
2. 遊びの場の提供
3. 学習支援

大まかな流れは次のようになっています。

1. 子どもたちが集まり、各々が老人クラブの集会所や広場において自由に勉強や遊びを行う
 2. 食堂へ戻り、2グループに分かれて、食事をとる
- 堺市子ども食堂開設支援補助金より20万円の補助
○企業等から約30万円の補助
○参加費用は子ども無料、保護者・関係者は300円



訪 問 日 :平成30(2018)年12月8日(土曜)

訪問委員:植木 聡委員、佐伯 知子委員(紹介者として、田間 泰子委員)

訪問場所:白鷺団地内(しらさぎ夢テラス及び周辺)

つながりの 発展性

子ども食堂を開設するにあたり、何よりも大切なことは人との「つながり」であると改めて思いました。こちらの子ども食堂では、食事はカレーライスのみということですが、このカレーライスはもともとカレーショップを運営していた知人がレシピを監修しているので、味はお墨付きのこと。

代表の森川さんをはじめとするスタッフのみなさんの純粋な思いや地道な試行錯誤の積み重ねによって活動が展開されており、その活動を支える大学生ボランティアをはじめ、周囲の協力と理解の輪に、「つながり」の発展性を見つけることが出来ました。

活動のキーパーソンからお話を伺いました

森川 洋子さん
(こども夢くらぶ代表)

ももとはケアマネージャーをされていて、仕事を辞めてから自分の住む町で「何か地域に貢献したい」という想いから、子ども食堂を始められました。子ども食堂の運営をする中で子どもたちの変化や成長に気づくことがあり、嬉しく感じるとともにやりがいにもなっているとお話を伺いました。



主催者のメッセージ

私たちの運営する子ども食堂は子どもの居場所であると同時に、ボランティアスタッフの居場所となり生きがいともなっています。

普段の生活や活動及び家庭や地域で子どもを育て、大人もともに成長していくことが社会教育だと思います。

SDGsとの関連性



「こども夢くらぶ」とは

こども夢くらぶは、住民有志のボランティア団体であり、子ども食堂の運営を行っています。毎月第2・4土曜日の11:00~14:00白鷺団地内(しらさぎ夢テラス及び周辺)で白鷺小学校区内児童およびその保護者を対象として運営しています。

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

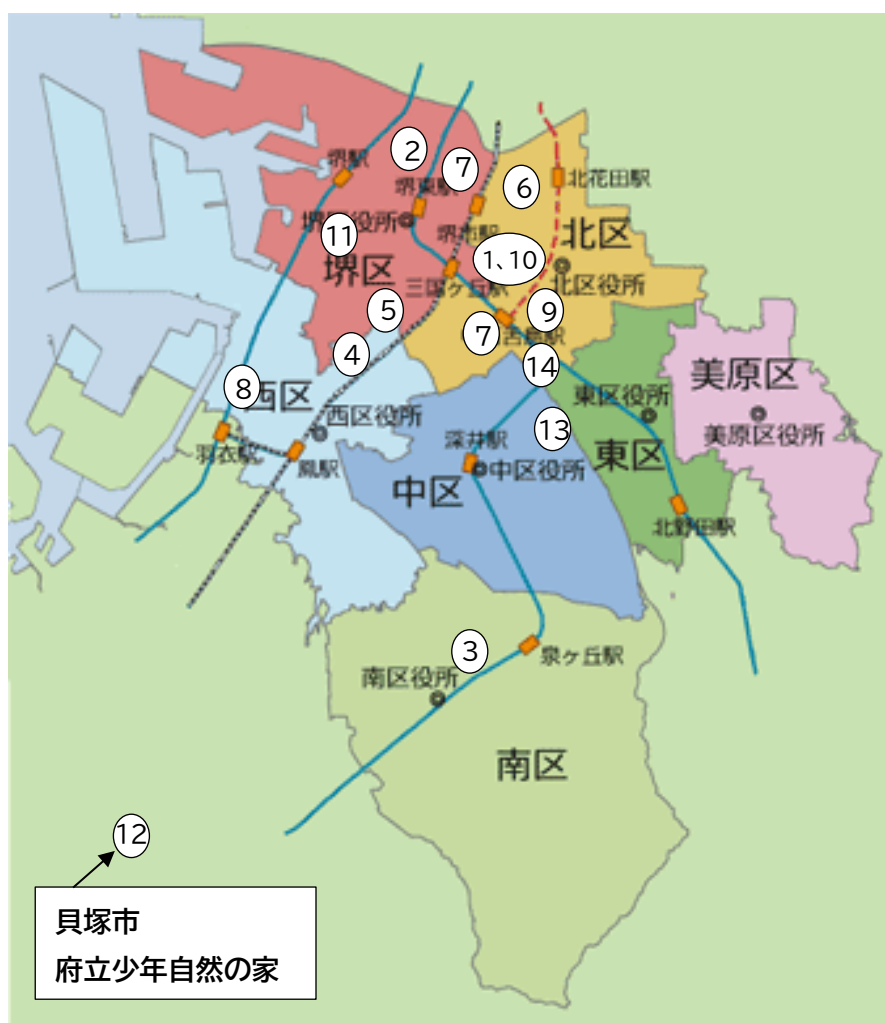
事例1

事例2

事例3

資料編

「ぶらり社会教育」訪問マップ



番号	掲載場所	イベント名	訪問日
①	堺市ホームページ	生徒会リーダー会議	平成28年10月13日(木曜)
②	堺市ホームページ	女性創作展	平成28年10月21日(金曜)
③	堺市ホームページ	ハロウィンイベント	平成28年10月28日(金曜)
④	堺市ホームページ	津久野ふれあい将棋フェスタ	平成28年12月23日(金曜)
⑤	堺市ホームページ	更生保護茶会	平成29年 4月 9日(日曜)
⑥	P14	ふれあい親子フェスティバル	平成29年10月21日(土曜)
⑦	P16	関西矯正展バザー	平成29年11月12日(日曜)
⑧	P18	石津っ子くらぶ	平成29年11月22日(水曜)
⑨	P20	堺市PTA協議会中央研修会	平成29年11月25日(土曜)
⑩	P22	いわき・さかい生徒会交流会	平成29年12月26日(火曜)
⑪	P24	夏休み親子茶会	平成30年 7月21日(土曜)
⑫	P26	いわき・さかいフレンドシップサークル (2018)	平成30年 8月21日(火曜)

みんなで「つながり」を広げましょう！

○堺市社会教育委員会議では、堺の魅力ある社会教育の活性化に寄与するため、提言書に基づき、次の3つのことを実践しています。

「三つの実践」

（提言書 P30(2)みなさんとともに実践し、発信し続けていく社会教育委員会議より）

- 団体が日々取り組んでいる活動を訪問し、学びあい教えあいに気づき実感します。
- 気づき実感したことを言葉、絵や図で表わし、提言書などにまとめます。
- 提言書などにまとめたことを分かちあう場を設け、呼びかける活動などを行います。

○提言書や実践報告書の役割は、単に一方的なものとして終わるものではなく、みなさんや各種団体と社会教育委員会議が「つながり」、それぞれの個性を大切にしながら、ともに成長していく一つの仕掛けとして理解してもらいたいと思っています。

提言(2)

みんなで「つながり」を広げましょう！

○日々の活動にある社会教育のなかでも、とりわけ、ともに学んだり、教えたりする「つながり」を広げていくことで、さまざまな課題が解決され、要望が満たされるなど、より豊かな生活を送ることができ、みなさんは**幸せを実感**することができると考えています。

○これまでは海を介した他の国々などとの「つながり」のなかで堺が発展してきました。これからは社会教育を介したみなさんの「つながり」のなかで、地域、そして堺がさらに発展していくと考えています。

— 「堺の宝って何？」を学びあい、教えあい —

学び合い教えあいの場 社会教育フェスタ



-概要-

実施日：平成30（2019）年
2月18日（日）
実施場所：堺市立女性センター
堺市堺区宿院町東4丁1-27
（現：堺市立男女共同参画センター）
主催者：堺市教育委員会
参加者：約80名

学びあい、教えあいの場 社会教育フェスタの概要

「社会教育フェスタ」は、平成29（2017）年6月に策定した「提言書」の内容を広く市民の皆さんに知っていただくこと、「社会教育」について考えていただくことを目的に堺市社会教育委員会議と堺市教育委員会が企画・実施したイベントです。

当日は、各種団体や堺市立中学校生徒会のみなさん、一般公募等の約80名の参加がありました。

立教大学社会学部教授の萩原なつ子さんをファシリテーターとして迎え、ワールド・カフェをメインに、社会教育委員による「提言書」を踏まえた「社会教育とつながり」についての講演や堺市立中学校生徒会のみなさんによる「よさこいソーラン」の披露や「堺市のいいところ探し」の発表が行われました。

社会教育フェスタのプログラム

当日のプログラムは以下のとおりです。

○オープニング

堺市中学校生徒会による「よさこいソーラン」の披露

○第一部 堺市教育委員会より挨拶

○第二部 堺市中学校生徒会からの発表

テーマ「堺市のいいところ探し」

○第三部 ワールド・カフェ

テーマ「堺の宝って何？」

○第四部 「社会教育」と「つながり」についてのミニ講義

○第五部 SDGsについて

「誰もが取り残されない社会」

○第六部 堺市社会教育委員会議からの挨拶



社会教育
フェスタの
チラシです。

当日参加の参加団体等の一覧

堺市自治連合協議会、堺市女性団体協議会、堺市人権教育推進協議会、堺市立中学校校長会、堺市PTA協議会、堺市更生保護女性会、堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会、津久野校区まちづくり協議会、浜寺石津校区まちづくり協議会、東浅香山校区まちづくり協議会、若草こども会、堺市立中学校生徒会のみなさん、「堺 自由の泉大学」受講者のみなさん

おもてなしの心 ～堺らしさ～

会場の入り口には、世界遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群の紹介パネル、堺市立中学校生徒会による啓発横断幕、会場内に社会教育フェスタにご参加いただいた各種団体による活動内容の紹介パネル展示を行いました。



これらの展示は、堺の社会教育資源として、堺らしさを体現していると言えます。



堺市中学校生徒会のみなさんによる 「よさこいソーラン」の披露と 「堺市のいいところ探し」の発表

社会教育フェスタのオープニングには堺市立中学校生徒会のみなさんによる「よさこいソーラン」の披露があり、参加者は中学生のみなさんが踊る、その迫力に魅入っていました。

また、平成29年12月25日、26日に堺高等学校で開催された堺市被災者支援交流事業「いわき・さかい生徒会交流会」の際に、福島県いわき市と堺市の中学生達が発表した「堺を支え、堺を守り、堺を育てる」人々に訪問、インタビュー、見学、体験等を行った成果を、フェスタ参加者に発表し、堺らしさを再発見し、分かち合いました。



提言書の策定趣旨の説明と ワールド・カフェの実施

「提言書」の主なポイントについて、教育委員会の田所教育次長より提言書の策定趣旨と3つのポイントについて説明がありました。

「社会教育への発想をきりかえる」「みんなで「つながり」を広げる」「堺らしさ」の3点の説明をしていただきました。

これらの説明を踏まえ、立教大学社会学部教授萩原なつ子さんをファシリテーターにお迎えし、ワールド・カフェを行いました。



ワールド・カフェ
のテーマ
「〇〇がある堺」



ワールド・カフェのテーマは「〇〇がある堺」ということで、自分たちがイメージする堺、こうなって欲しい堺を参加者みなさんで考えてふせんに書き込み、各テーブルの大きな模造紙に貼ることで「表して」いただきました。

また、個々人がイメージする堺の実現に向け「明日から取り組むこと」も記載していただきました。

ワールド・カフェが初めての方も多かったですが萩原先生の軽快な語り口で、参加者みなさんが楽しく議論することができました。

「ワールド・カフェ」とは？

カフェのようなリラックスできる雰囲気の中で、メンバーの組みあわせを変えながら、4～6人の少人数で話しあい続けることにより、深い相互理解や新しい知識を生み出す話しあいの手法です。

目次

第1章

第2章

第3章

平成 29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成 30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

ミニ講義 「社会教育」と「つながり」

ワールド・カフェ終了後には、社会教育委員の林美輝副議長より、社会の変化と一般的な社会教育、提言書の特徴、ワールド・カフェなどが社会教育としてどのような位置づけであるかなどについて説明がありました。

参加者のみなさんが日々行っている活動や、このイベントでのワールド・カフェをはじめとした内容に「学びあい・教えあい」や「つながり」があり、社会教育であることを、参加者のみなさんに知っていただきました。



SDGsの観点からの説明

また、社会教育委員の山口典子委員より、本日のイベントについてSDGsを踏まえて、楽しくお話いただき、みなさんの日々の活動の積み重ねが「誰もが取り残されない社会」の実現に向けて、重要であることを、分かち合うことができました。



市民のみなさんや各種団体のみなさんが日々取り組んでおられることはSDGsの各目標に向かっているのと同時に、それぞれの活動にSDGsが根付いています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



社会教育委員会議からの挨拶

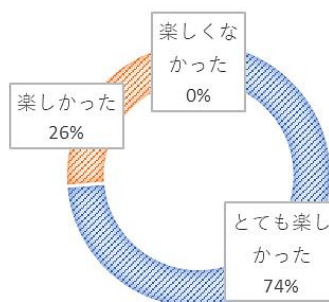
最後に、堺市社会教育委員会議餅木哲朗議長より、本イベントが「提言書」の内容を分かちあう場であり、ワールド・カフェやパネル展示、中学校生徒会のみなさんの発表などのなかに、社会教育の要素「学びあい・教えあい」や「堺らしさ」を盛り込まれていることを説明していただきました。



参加者アンケートより

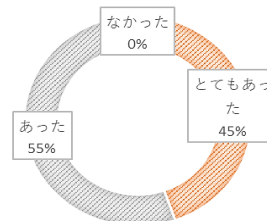
○本日は楽しかったですか？

今日は楽しかったですか？



○今日の内容で、今の自分に生かせることはありましたか？

今日の内容で、今の自分に生かせることはありましたか。



○その他意見

- ・異年代で、いろいろな発想や観点を受け、気づきを見つけた。
- ・世代を超えて、もっと、いろいろな方との輪を広げようと思った。

当日のイベント風景より



笑顔あふれる 住み続けたいまち

SDGs未来都市・堺
Sustainable Development Goals Future City, SAKAI CITY

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

— 「地域の清掃活動」が「社会教育？」 —

親子で！みんなで！古墳を清掃！



-概要-

実施日：平成31(2019)年

2月24日(日)

実施場所：堺市立百舌鳥小学校及び

ニサンザイ古墳外周部

(御陵山公園)

主催者：堺市PTA協議会

堺市教育委員会

参加者：約40名

親子で！みんなで！古墳を清掃！

の概要

「親子で！みんなで！古墳を清掃！」は、平成31(2019)年2月24日(日)に、堺市PTA協議会と堺市教育委員会が連携し、当時、世界文化遺産登録をめざしていた百舌鳥・古市古墳群の構成資産の一つであるニサンザイ古墳の外周部の清掃活動を行ったものです。

本イベントは、社会教育委員である植木聡委員の発案により、堺市PTA協議会と堺市教育委員会が連携して実施したものです。

地域清掃という、多くの地域で実施されている活動の中に「子育てに関する学び」を発見することを活動の目的としています。

実施当日は、天気にも恵まれ、地域の団体の方々や多くの親子を含む事前公募された約40名の方にご参加いただきました。

活動内容

清掃活動のプログラムは以下のとおりです。

- 堺市立百舌鳥小学校（集合場所）で、福田小学校PTAによる地域清掃の事例発表を聞き、社会教育的な清掃活動について学ぶ。
- 社会教育委員の服部委員による講評
- みんなでニサンザイ古墳の外周部に移動し、清掃前にみんなでグループワーク
- ニサンザイ古墳外周部での清掃活動
- 清掃活動終了後、グループワークを行い、実践内容をみんなで振り返ったり見直したりしてみる。
- 最後は楽しく！みんなで記念撮影
団結・思い出づくり。

**親子で！みんなで！
古墳を清掃！**

日 時 平成31年2月24日(日) 午前10時から午前11時30分まで
※部活動の予定で終了時間が前後する場合があります。

集 会 場 所 百舌鳥小学校体育館に午前10時(受付は9時から)
※雨天の場合は内容を変更して実施します
(当日午前7時時点で堺市に暴風警報又は大雨警報が発令の場合は中止)

清 掃 場 所 ニサンザイ古墳外周部

参加対象者 堺市立百舌鳥小学校のPTA(教員と保護者各1)、子ども各2
※1：親子参加もちろんOK！但し保護者のみ参加。
※2：中学生以下は保護者同伴で！高校生以上は1人で参加OK！

活動の目的 清掃活動の中に「子育てに関する学び」を発見する！

活動の内容 ①事前発表を聴き社会教育的な清掃活動が何かを学ぶ20分
②グループに分かれて「いざ実践！」
・清掃道具を受け取り①を指したグループワーク20分
・休憩15分
③振り返りワーク20分程度①を振り返る
④参加者みんなで記念撮影で団結・思い出づくり

ニサンザイ古墳は、墳丘長300mの日本で7番目の規模を誇る大型の前方後円墳で、前方部が大きく立ち、後円部より高くなる構造は、当時の機軸な姿を現在に伝えています。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録PRのメインシンボルとしてポスターやチラシ、2019年賀はがきのデザインにも採用されています。また、2018年11月に国の文化審議会が国指定史跡にニサンザイ古墳内蔵を追加指定すると書状を出しました。

堺市PTA協議会は、子どもと関わりあふれる「学び」を求め、自らも学び続けようとする親と教員でなる組織です。お互いに支え合いながら学びあひ、楽しみながら活動しています。定校教育・家庭教育・社会教育という言葉がありますが、様々な環境を学びの場とし、未来を担う子どもの自立心を育てます。さあ、いざ実践！

堺市PTA協議会事務局(堺市教育委員会事務局地域教育振興課内)
堺市教育委員会事務局「教育文化振興課」企画
堺市社会教育委員会、魅力あふれる百舌鳥野をつくる会 協力

古墳清掃の
参加者募集
チラシです。

当日参加の参加団体等の一覧

堺市PTA協議会
堺市立福田小学校PTA
魅力あふれる百舌鳥野を作る会のみなさん
公募で申し込まれたみなさん

社会教育的な清掃活動とは？

イベント開始冒頭に、本市社会教育委員でもある堺市PTA協議会の植木会長及び堺市教育委員会事務局地域教育振興課の八木課長からの挨拶、開催趣旨の説明がありました。

「社会教育的な清掃活動」について、参加者に理解を深めていただくために、平成30（2018）年11月18日に堺市立福田小学校で実施された清掃活動（本実践報告集P28-29掲載）について、同校PTAの方2名より事例発表していただきました。



堺市教育委員会と堺市PTA協議会が連携し作成したワークシートです。
普段、実施している地域清掃活動こそが、実は社会教育的活動です。
親子でいろいろ考えながら、やってみてください！

堺市立福田小学校の発表です。
○福田小PTAを含め22もの地域団体が協力して地域清掃を行いました。
○未就学児が、年配の方やご近所さんと、楽しそうに清掃しています。
○美化活動を通じて、学校や地域と交流できて良かったです。



社会教育委員会議 服部節子委員による講評

堺市社会教育委員会議から、服部節子委員が本イベントにご参加いただきました。

服部委員から参加者のみなさんへ、福田小学校PTAによる発表を踏まえ「提言書」の内容を踏まえた講評をしていただきました。



堺市社会教育委員会議 服部節子委員
○どんな場面においても、親が一生懸命している姿を子どもに見せているということは、大事なことです。
○単に清掃をするということだけでなく、親は子どもに自分が清掃活動をする姿を見せて、掃除の仕方とともに、将来子どもが、大人になった時に同じことができるよう、その心を子どもに伝えていただきたいと思います。

清掃活動が「社会教育」と意識していただくためグループワーク

百舌鳥小学校で、社会教育的な清掃活動について学んだ後は、清掃を行う数人単位のグループごとに分かれ、百舌鳥野の会のみなさんの誘導で、安全に留意しながら、清掃活動を行うニサンザイ古墳に隣接する御陵山公園に移動しました。

清掃活動を行うグループごとに分かれ、配布

目次

第1章

第2章

第3章

平成 29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成 30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

された堺市PTA協議会が作成したワークシートを元に、20分間のグループワークを行い、親子のふれあいや他の参加者との交流をしつつ、これから行う社会教育的な清掃活動の意義について、みんなで認識を深めました。



普段、行っている親子のふれあいや他の参加者との交流を通じて行う活動の中に「子育てに関する学び」があることに気づいていただくためにワークシートを作成しました。

- 清掃を始める前にグループで次のことを話し合ってみましょう（20分）
- （1）自己紹介「ニックネーム」
 「私はサザエさんに出てくるキャラクターでは●が好きです」
 ※寒さに負けないように大きな声をお願いします。
- （2）次の中から目標にしたいことを選んで発表してください
☐ 楽しむ（ミッション：ポジティブな言葉を覚えてたくさん口に出す）
☐ 寒さに打ち勝つ（ミッション：「寒い」と口に出さない。足踏みなど体を動かす）
☐ ニサンザイ古墳について情報を得る
☐ メンバー全員に親のことや子育てに関することや又は地域活動で何かしたことがあるかを質問する
☐ グループのリーダーになって役割分担（安全確認者・タイムキーパー・コースキーパー・ゴミ持ち等）を決める
☐ メンバー全員の良いところ探しをする（本人も気づかずにやっている動作・話し方など技を学ぶ気持ちで鋭く観察）
☐ 「お」親子で話そう・やっってみせてあげよう・そ」育てよう親のデカウ・だ」だれもが親・ち」地域と親がつながろう」の何かをする
☐ 自分で考えた目標（ ）
- （3）時間があればグループ名を決める⇒（ ）

堺市PTA協議会がアレンジしたワークシートの一部です。
 参加した方がわかりやすいように工夫されています。



みんなでニサンザイ古墳を清掃

グループワーク終了後に、みんなでニサンザイ古墳外周部での清掃活動を行いました。

普段からきれいに保たれている公園ですが、今回のように清掃活動を行うことで、参加者がそれぞれの地域に帰っても、自分たちの住んでいる地域への意識が高まったのではないかと思います。



お堀の向こうがニサンザイ古墳です。

広い公園の中をみんなで清掃しました。



堺のゆるキャラが登場

清掃活動中には、本市環境マスコットキャラクターの「ムーやん」や堺の古墳をこよなく愛している「ハニワ課長」が登場し、ゴミの減量や、堺市が世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群のPRを行うなど、清掃活動を盛り上げてくれました。



ハニワ課長が参加者のみなさんに百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録をPRしました。

「ムーやん」は子どもたちに大人気でした！



清掃活動の意義を再確認

清掃活動終了後に、再度グループごとに分かれ、振り返りのグループワークを行いました。活動内容を振り返ることで、親子のふれあいにつながるとともに、他の参加者との交流を通じて行う清掃活動の意義を再確認しました。

参加したみなさんにご記入いただいたワークシートは半分に切り離せるようになっており、半分は主催者が次の開催に生かせるよう、また、もう半分は参加者が持ち帰ることによって、それぞれが各家庭や、次の活動に向けて活動の振り返りができるものです。



清掃活動に再度グループワークを行い、活動をみんなで振り返りました。

堺市教育委員会が保護者に啓発している家庭教育支援の視点をわかりやすく示した「お・や・そ・だ・ち」を清掃活動に使用したワークシートに落とし込んだものです。

子どものや親が参加するイベントで「お・や・そ・だ・ち」を意識することで、普段の地域活動が「親が育ち子どもが育つ地域活動」になります。

清掃後にグループで次のことを話し合ってみましょう（20分）

- ・目標の達成度は何パーセントか？
- ・清掃活動をして気づいたことや思ったことは？
- ・「お・や・そ・だ・ち」で、できたと思うものは？

お

- ・親子で普段と違う話ができた
- ・1人で参加したが家でこの話をした

や

- ・ごみをみつけてあげた
- ・袋をさっと差し出した

そ

- ・子育てテクニックを得た
- ・悩みが解消された

だ

- ・自分の子や親以外と協力し合えた
- ・注意してもらった、ほめてもらった

ち

- ・出会った人に挨拶
- ・まちを見守ってくれている人の存在に気付いた

みんなで「つながり」を広げる！

最後は、参加者全員で堺市PTA協議会が作成した手ぬぐいを手に記念撮影を行いました。ニサンザイ古墳という「堺ならでは」の場所で、清掃活動を行うことで、堺にある文化遺産についての知識を得ることができ、みんなで大事にしていくという観点や、親子のふれあいや他の参加者との交流などが生まれました。

「ニサンザイ古墳」という地域（場所）とみなさんが、また、参加者したみなさんがそれぞれ相互に「つながる」ことができました。

これこそが社会教育の実践の場であり、堺の社会教育資本（ソーシャル・キャピタル）の構築事例となる清掃活動となりました。



目次

第1章

第2章

第3章

平成 29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成 30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

コラム：社会教育とSDGs

○SDGsは、先進国と開発途上国がともに共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標であり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを明確に掲げており、「2030年の世界のあるべき姿＝さまざまな課題が解決された、持続可能な社会」を実現するための17のゴール（目標）であり、その下に、169の具体的なターゲットと232の指標が定められています。

○堺市では「SDGs未来都市計画」として、各項目における独自の目標を掲げており、行政の各施策による取組や、市民活動において、日々目標への進捗が図られています。

○これらをはじめとするSDGsにかかわる様々な計画等は、私たちが地球でずっと暮らしているよう、国連や企業、有識者たちが知恵を寄せ合ってきたものですが、私たちが毎日の生活の中で行っているさまざまな活動であったり、気を付けていることの中にも、SDGsのゴールに深く関係しているものがあります。

○社会教育は、一人ひとりが日々の生活の中で出会うさまざまな課題の解決などに向け、自分にあった形で学ぶことや、わたしたちの生きる社会において、さまざまな形で存在する課題について解決することに寄与しうるものです。SDGsも同様に、今、私たちの社会が直面しているさまざまな問題を解決することをめざしており、SDGsの目標である「誰もが取り残されない、一人ひとりが幸せな社会を実現する」という目標は、社会教育において「つながり」や「学びあい・教えあい」に共通するとても大事なことであると言えます。

○SDGsの取組を推進させるためには、行政や市民のみなさんが新たな課題を認識し、取り組みを行うことも重要ですが、行政や市民のみなさんが日々行っている活動を改めて「振り返ったり、見直してみる」ことも大事ではないでしょうか。



行政のさまざまな取組にも、社会教育の視点があります。

○社会教育法第3条(国及び地方公共団体の任務)として、「国及び地方公共団体は、この法律及び他の法令の定めるところにより、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布その他の方法により、すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。」としています。

○市民のみなさんや各種団体が日々さまざまな活動を行っているのと同様に、行政においても多くの施策が日々実施されています。

○これらの行政の多くの施策において、「社会教育法に定める一般的な社会教育」だけでなく、実は社会教育を直接目的としたようなものではない、さまざまな目的をもって実施されている施策の中にも、社会教育の観点が含まれているのです。



おもてなしトイレ (大仙公園)



-施設概要-

増加している国内外からの来訪者へのおもてなしのため、安全・安心・快適なトイレ大仙公園いこいの広場に整備されました。(平成30(2018)年3月竣工)

キッズトイレや女性用パウダーコーナーがあり、多言語表記のサインや友好都市である東吉野村の木材を使用したベンチも設置され、おもてなしの精神を体現しています。

また、防犯対策として、外部に防犯カメラ、個室には非常用ボタン、間仕切り壁を天井まで立ち上げるなど、堺セーフティ・プログラムやジェンダー、人権の視点を取り入れた、まさに性犯罪や暴力を許さないトイレです。

ポイント

誰もが安全・安心・快適なトイレ

増加する国内外全ての来訪者のための 「おもてなしトイレ」

令和元年度5月に世界文化遺産登録された百舌鳥・古市古墳群の中で最大の規模を誇る大仙(仁徳天皇陵)古墳に隣接し、堺市博物館や日本庭園がある大仙公園を訪れる人がここ数年増えてきています。

堺市では、増加している国内外からの来訪者へのおもてなしのため、平成30(2018)年に大仙公園いこいの広場に安全・安心・快適なトイレを整備したことから、社会教育委員会議で視察を行いました。

堺セーフティ・プログラムの観点

「おもてなしトイレ」は、公衆トイレとしては初めて「堺セーフティ・プログラム」の視点を取り入れ、キッズトイレや女性用パウダーコーナー、多言語サイン、防犯カメラの設置など、使



用する全ての方の安全・安心に配慮し設置されました。

全ての来訪者の 「安全・安心・快適」のために

大仙公園のいこいの広場の西の端にある「おもてなしトイレ」は、既存の公衆トイレのイメージとはかけ離れた和風の趣のある建物でした。

建物は左右対称で、中央に広い入り口があり、入ったところは広々とした空間で、奥に市立堺高校の生徒が作成した吉野杉を使ったベンチが設置された休憩スペースがあり、小学生ならば1クラスが十分雨宿りできる広さです。奥の壁はガラス張りで大仙公園の緑の木々が見えます。

外から中の様子が見える安全で、しかも明るい構造になっています。左右の壁の下に大きな木製のベンチがあり、壁には堺の伝統産業である注染の手ぬぐいが展示されています。堺高等学校の生徒が製作した吉野杉のベンチは、堺市の友好都市である奈良県東吉野村産の杉を素材にしているとのことでした。

エントランスのスペースの左側に女性用トイレと多目的トイレがあり、右側に子ども用と男性用トイレがあり、公園のトイレに子供用があるということが新鮮でした。子ども用トイレには、低いパ

ーテーション（ついで）の個室に幼児用の便器があり、子どもは大人に見守られながら利用できるようになっていました。これには自立を促すと共に子どもの人格を尊重する視点が感じられました。

子ども連れの方も安心して使えるように、女性用、男性用共にベビーカーを入れることができる広い個室があり、その中には乳幼児用のベッドやベビーチェアが設置されていました。男女共同参画社会にあっては、公共施設の全てにあるべき設備ではないでしょうか。

また、全個室を含め各所に非常用ボタンが設置されていました。

非常用ボタンを押すと大きな電子音が鳴り、各トイレ入口上部の赤色灯が点灯し、建物の外にあるパトライトが回ることで外部に異常を知らせる仕組みになっています。



また、今後は訪日外国人が多く訪れることが予想される中、トイレ内の表示は、ピクトサインを使うとともに4か国語表記の「トイレのつかいかた」が掲示されていました。

「おもてなしトイレ」は、堺市役所女性職員の方々の意見が反映されているということで、その良さを感じられるものであることは間違いないと思います。



社会教育資源としての「おもてなしトイレ」

見学後の社会教育委員会議では、「設計のコンセプトの説明があると良い」「LGBTの人への配慮について当事者に評価していただくことも大事ではないか」「人権を大切にしたいトイレから市民も学べる。」「もっと市民に伝えたい」「市民が活用方法を知ること、来訪者をもてなすためのトイレが完成する」「花一輪の心遣いに堺らしさを感じた」などの肯定的な意見がありました。「おもてなしトイレ」はこれで完成ではなく、利用の仕方ですばらしい資源になりそうです。(社会教育委員 餅木 哲朗)



誰もが使いやすい、おもてなしトイレからSDGsの視点が感じられました。

訪問先データ



訪問先の情報は掲載時点での情報ですので詳細は各施設等にお問合せください。

所在地 堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁（大仙公園内いこいの広場）

利用期間 通年

利用時間 4月～9月 5:00～21:00
10月～3月 6:00～21:00

交通アクセス JR阪和線「百舌鳥駅」から徒歩で5分

目次

第1章

第2章

第3章

平成29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

堺市博物館



-施設概要-

堺市博物館は、市制 90 周年記念事業として昭和 55(1980)年に開館しました。生涯学習と市民文化の向上のため、堺市の歴史、美術、考古、民俗に関する博物館として、多くの資料を収集、保存、展示しています。

古代史のロマンを秘めた百舌鳥古墳群のほぼ中心にある大仙公園の広大で緑豊かな中に、博物館、茶室、中央図書館、自転車博物館、日本庭園、都市緑化センターなどが整備されています。

ポイント

自由都市-堺-に出会う場所

海の「つながり」と堺

堺は、中世、ポルトガルをはじめ海を越えた「つながり」があり、そのような歴史から、堺は海の向こうの国々や地域からもたらされた知識や技術などを通じて発展し、今日の姿になっています。

堺市社会教育委員会議では、堺の豊富な社会教育関係資本（ソーシャル・キャピタル）を知ることが、今後の堺の持続可能な社会教育のためには必要だと考え、「先人」の知恵が詰まっている堺市博物館を視察いたしました。

から薩摩、琉球へとつながる海路の起点となり、近畿地方の文化と貿易の中心になったとのことです。その時、種子島経由でポルトガルの鉄砲が伝わって有名な生産地となり、江戸時代には幕府による統制下で生産を続けました。

この歴史から分かることは、2つあります。まず、堺の歴史はものづくりの優れた技術を他国から受け入れて学び発展させる、国際的な交流の歴史そのものであることです。

もう一点は、堺の「先人」とは朝鮮半島やそのほかの地域から渡来した人たちを、あたりまえのこととして含んでいるということです。

自由都市-堺-

堺市博物館は、「堺らしさ」の宝庫です。こちらで「堺らしさ」についてたくさん学びましたが、「鉄」を例にします。古墳時代、多量の鉄の原料が朝鮮半島から日本にもたらされ、堺の古墳などに鉄器が納められました。

中世から近世に「自由都市-堺-」が繁栄しましたが、その原因には戦国時代の戦乱があったと教えていただきました。京都や瀬戸内海を含む西日本の広い地域で戦乱が続き、堺が土佐沖



鉄砲と平和の関係

結果的に、戦乱が堺を繁栄させるきっかけになりましたが、だからこそ率先して平和の大切さを訴え続けなければならないと思いました。

戦国時代には堺でも非常に多くの鉄砲が作られたそうですが、それは堺が求める繁栄ではなかったかもしれません。後の江戸時代に作られた鉄砲には美しい唐草模様が描かれ、武器というより工芸品に見えました。唐草模様は古代ペルシアから日本に奈良時代に伝わったもので、永遠の命を表します。その描かれた唐草がむしろ鉄砲の力を戒めているように感じられました。

伝統の技の平和利用へ

堺には、もう一つ有名な鉄製品、包丁があります。「南蛮貿易」で伝わった煙草を刻む包丁で有名になり、包丁を作る鍛冶仲間による専売が行われていました。

包丁も、使いようによっては凶器となります。しかし、堺の包丁は武器ではなく、多くの人々を育み、喜ばせ、結びつける「つながり」のための料理の道具です。そして、それは現在でも変わらず、脈々と受け継がれています。

このように、堺のものづくりは、国際的な先人たちの志と交流、そして尽力によって鍛え上げられた素晴らしい技術に支えられています。ぜひ、平和の実現につながって欲しいと思います。



堺で長年伝えられてきた技術・歴史にSDGsの視点が感じられました。



堺市博物館には、このような堺の歴史が満載です。展示だけでなく、体験コーナーや古墳をバーチャルリアリティ（VR）で楽しめる「百舌鳥古墳群シアター」もあります。

周囲のゆったりした大仙公園や、堺市茶室「伸庵」「黄梅庵」もお勧めです。ぜひ、悠久の堺の歴史に思いを馳せながら散策してみたいかがでしょうか。

（社会教育委員 田間 泰子）



訪問先データ



堺市博物館

訪問先の情報は掲載時点での情報ですので詳細は各施設等にお問合せください。

所在地 堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁（大仙公園内）

利用期間 通年

利用時間 4月～9月 5:00～21:00
10月～3月 6:00～21:00

交通アクセス JR阪和線「百舌鳥駅」から徒歩で5分

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

TALK★CAFE

高校生みらい議会



-イベント概要-

平成30（2018）年11月17日開催

○第1部 議会報告

（市役所本館11階 本会議場）

・議会の活動について議員が報告

○第2部 議員との懇談（意見交換）

・12のテーブルに分かれて、次代を担う高校生と議員が身近なテーマについて自由に意見交換（市役所本館10・12階 委員会室等）

【意見交換のテーマ】

『これからの堺のまちづくりについて』～このまちを住み続けたいまちにするには？～

『これからの堺の観光について』～若者や外国人が訪れたいのはどんなまち？～

ポイント

市議会をより身近に！

次代を担う高校生と議員との意見交換

今回の報告会は、公職選挙法の改正による選挙権年齢の18歳以上への引き下げと令和4（2022）年から民法の改正による成年年齢の変更により、今後、若者のさらなる政治参加が期待されていることから、次代を担う高校生と議員が意見交換等を行い、高校生の政治、行政、選挙に対する理解を深め、関心を高めることを目的として実施されたものです。

第1部では、公職選挙法の改正による選挙権年齢の18歳以上への引き下げと議会活動に関する情報を議員が直接、報告・説明することにより、議会への関心を高めていただき、第2部では、5つの会場に分かれて、議員と高校生がまちづくりや観光などの市政に関する2つのテーマ（「これからの堺のまちづくりについて」「これからの堺の観光について」）について自由に意見交換を行いました。

高校生と市議会議員との意見交換

政治に参加する権利は、民主主義の原点であり、人権の核となるものだと思います。そのような権利ではありますが、高校生にとっては、

まだまだ身近なものとは言えないのかもしれませんが。今回、行われた市議会議員との意見交換で、小グループに分かれた際に、それぞれのグループで司会役をされていた市議会議員が、高校生のみなさんの意見をしっかり受け止め、話しやすい雰囲気を作っていました。

高校生と市議会議員という普段、接点の持ちにくい立場の人たちがざっくばらんに意見交換を行い、堺のための新たな知恵を生み出すとともに、それらを分かちあう良い機会になったのではないのでしょうか。

これからの堺のまちづくりについて

第1部の議会報告の終了後、12のグループに分かれ、高校生と市議会議員で意見交換を行いました。まず始めのテーマ「これからの堺のまちづくりについて」では、さまざまな高校生



からの率直な意見が出ていました。特に若者らしい意見が多いのかと思われましたが、意見交換後の市議会議員からの総括によると、SNSを活用した堺の情報発信やまちの賑わい、自転車の通行環境、スポーツ・文化施設の整備など多岐にわたり、生活者目線での意見が多かったことが印象的でした。

これからの堺の観光について

堺の観光についても、古墳に関連して多くの意見が出され、増加する外国人観光客へのアピールとして、気球を活用したものや、Wi-Fi、町家カフェの整備など世界遺産登録をめざす古市・百舌鳥古墳群の活用などの意見がありました。

多くのテーブルでは堺の伝統産業である包丁や千利休を始めとした茶の湯文化、じゅうたん、自転車など、堺が誇る歴史・文化・産業についてのアピールが不足しているのではないかと意見もあり、堺の強み・弱みについて高校生がしっかりと自分の考えを持ち、文化的な視点を備えていました。



また、歴史

・文化だけでなく、商店街の活性化や美術館による観光客誘致策など、これからのまちづくりに関する意見も多く接することができました。

今回、高校生からも堺の特産品をはじめとするモノ作りを世界に広めていくことの重要性がなされていましたが、そういったテーマを議

論することで、持続可能な堺らしさの発展にも寄与することができると思います。

高校生と市議会議員との 学びあい・教えあい

今回の取組では、堺市の未来を担う高校生が考えていることについて、直接知ることができる機会であったと思いました。

高校生が市議会議員に向かって、とても積極的に発言しているのが印象的であり、自分自身の生活をより良くしていくための要望を表現していくことができていることは、すでに社会教育的な観点を兼ね備えた場であるとともに、意見を受ける立場である市議会議員が年齢の離れた高校生に市政などについて説明するための工夫をすることで、誰にも分かりやすい情報発信につながる取組となったのではないのでしょうか。

高校生と議員という、なかなか接点の持ちにくい立場の人たちがつながることはとても意義深いものがあったと思います。政治というものが、大人の世界にあるものではなく、年齢などに関係なくひとり一人が対等な関係性(学びあい・教えあい)の中で、日々の生活にとっても密接な関係を持つということに気づいてもらうきっかけになったのではないのでしょうか。

(社会教育委員 林 美輝)



高校生や市議会議員の積極的な姿にSDGsの視点が感じられました。

訪問先データ



堺市議会

訪問先の情報は掲載時点での情報ですので詳細は各施設等にお問合せください。

所在地 堺市堺区南瓦町3番1号

第1部：本会議場（堺市役所本館11階）

第2部：委員会室等（市役所本館10・12階）

交通アクセス 南海電鉄高野線 堺東駅下車、西出口からバスロータリー方向に約200メートル

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

資料編

堺市社会教育委員名簿

(任期 平成 29 年 7 月 1 日から令和元年 6 月 30 日まで)

氏 名	所属団体等	備 考
あさの いさお 浅野 勲	堺市自治連合協議会	-
うえき あきら 植木 聡	堺市 PTA 協議会	(任期) 平成 30 年 6 月 29 日から
さえき ともこ 佐伯 知子	大阪総合保育大学准教授	-
たま やすこ 田間 泰子	大阪府立大学教授	-
つるやま つよし 鶴山 剛	堺市立中学校長会	-
はっとり せつこ 服部 節子	堺市人権教育推進協議会	-
はやし みき 林 美輝	龍谷大学教授	○
はら あけみ 原 明美	堺市 PTA 協議会	(任期) 平成 29 年 7 月 1 日から 平成 30 年 6 月 29 日まで
もちき てつろう 餅木 哲郎	大阪教育大学教授	◎
やまぐち のりこ 山口 典子	堺市女性団体協議会	-

◎:議長 ○:副議長

(令和元年(2019)6月時点 50音順、敬称略)

目次

第 1 章

第 2 章

第 3 章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第 4 章

事例 1

事例 2

第 5 章

事例 1

事例 2

事例 3

資料編

堺市社会教育委員会議審議結果

日時	審議内容
平成29年8月3日	(1) ①議長・副議長の選出について ②今期の会議取組内容について (2) 堺市社会教育委員会議提言書について
平成29年10月11日	(1) 平成29年度指定都市社会教育委員連絡協議会等への参加報告について (2) 今期の会議取組内容について
平成30年5月14日	(1) 平成30年度社会教育関係事業予算の報告について (2) 平成30年度補助金の交付について (3) 今期の会議取組内容について
平成30年10月10日	(1) 今期の会議取組内容について (2) 委員改選について (3) その他
平成31年1月25日	(1) 今期の会議取組内容について (2) その他 (3) 委員改選について(非公開)
令和元年5月17日	(1) 令和元年度社会教育関係事業予算の報告について (2) 令和元年度補助金の交付について (3) 今期の会議取組内容について (4) その他

P6「ミレニアム開発目標(MDGs)」

ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）は、開発分野における国際社会共通の目標です。2000（平成12）年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言を基にまとめられました。

発展途上国向けの開発目標として、2015（平成27）年を期限とする8つの目標を設定しました。（①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯）

出典：外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

P6「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

2015（平成27）年の9月25日～27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。出典：国際連合広報センター <https://www.unic.or.jp/>

P7「中央教育審議会(ちゅうおうきょういくしんぎかい)」

中央省庁等改革の一環として、従来の中央教育審議会を母体としつつ、生涯学習審議会、理科教育及び産業教育審議会、教育課程審議会、教育職員養成審議会、大学審議会、保健体育審議会の機能を整理・統合して、2001（平成13）年1月6日付で文部科学省に設置されました。文部科学大臣の諮問に応じて生涯学習の推進や機会の整備に関する協議事項を審議し、文部科学大臣又は関係行政機関の長に意見を述べること。出典：文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

P7「地域学校協働活動(ちいきがっこうきょうどうかつどう)」

地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。出典：文部科学省 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/>

P8「社会教育施設(しゃかいきょういくしせつ)」

社会教育施設（しゃかいきょういくしせつ）とは、家庭や学校の外で、児童から青年、成人、高齢者に至るまですべての年齢の人が、学習や研修、スポーツや趣味に興じたり、楽しむ機会を提供されることが出来る生涯学習のための施設です。

社会教育法第3条にも規定があるとおり、社会教育施設では、社会教育の奨励に必要な施設であって、具体的には図書館、博物館（科学館なども含めて）、公民館（社会教育センター、市民館、市民ホール）、公文書館などがあります。出典：文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

P9「社会教育主事(しゃかいきょういくしゅじ)」

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。

○教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施

○管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言

○社会教育関係団体の活動に対する助言・指導

○管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施

出典：文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

P9「太政官布告(だじょうかんぷこく)」

太政官布告は、明治時代初期に最高官庁として設置された太政官によって公布された法令の形式です。内閣制度の発足に伴い、1886（明治19）年廃止されましたが、現行日本国憲法に反しない限りで現在も有効。出典：朝日新聞社「コトバンク」 <https://kotobank.jp/>

P10「百舌鳥・古市古墳群(もず・ふるいちこふんぐん)」

堺市の「百舌鳥」、羽曳野市・藤井寺市の「古市」の2つからなる百舌鳥・古市古墳群は、4世紀後半から6世紀前半にかけて200基を超える古墳が築造された巨大古墳群です。2019（令和元）年7月6日、アゼルバイジャンの首都、バクーで開かれたユネスコ世界遺産委員会で世界遺産に登録されました。出典：堺観光ガイド <https://www.sakai-tcb.or.jp/>

P10「社会関係資本(しゃかいかんけいしほん)※Social Capital(そーしゃる・きゃびたる)」

社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念です。ソーシャルキャピタルが蓄積された社会では、相互の信頼や協力が得られるため、他人への警戒が少なく、治安・経済・教育・健康・幸福感などに良い影響があり、社会の効率性が高まるとされます。

提言書（P26に記載）や本実践報告集における社会関係資本については、アメリカの政治学者であるロバート・パットナムの議論を参考にしています。

出典：朝日新聞社「コトバンク」 <https://kotobank.jp/>

P11「今井宗久(いまいそうきゅう)、津田宗及(つだそうきゅう)、千利休(せんのりきゅう)」

戦国時代から安土桃山時代にかけての商人、茶人、茶湯の天下三宗匠と称せられました。

今井宗久（いまい そうきゅう）永正十七年～文禄二年（1520～1593）

津田宗及（つだ そうきゅう） 生年不詳～天正十九年（?～1591）

千利休（せんの りきゅう） 大永二年～天正十九年（1522～1591）

出典：堺観光ガイド <https://www.sakai-tcb.or.jp/>

P11「和敬清寂(わけいせいじゃく)」

茶道で、主人と客が互いの心を和らげてつつしみ敬い、茶室の品々や雰囲気や清浄な状態に保つことです。千利休の茶道の精神・境地を表した語でもあります。「和」「敬」はともに主客の心得を、「清」「寂」は茶庭・茶室・茶器などに関する心得を意味します。

出典：朝日新聞社「コトバンク」 <https://kotobank.jp/>

P11「一期一会(いちごいちえ)」

一生に一度だけの機会。生涯に一度限りであること。生涯に一回しかないと考えて、そのことに専念する意。もと茶道の心得を表した語で、どの茶会でも一生に一度のものと心得て、主客ともに誠意を尽くすべきことをいいます。千利休の弟子宗二の『山上宗二記やまのうえそうじき』に「一期に一度の会」と記載されています。

出典：朝日新聞社「コトバンク」 <https://kotobank.jp/>

P11「堺・アセアンウィーク」

堺と交易の歴史を持つアセアン（東南アジア諸国連合）の国々の参加を得て、堺市制施行120周年を記念し、2009（平成21）年から毎年開催しているのが「堺・アセアンウィーク」です。

市民の方々とアセアンからの参加者との相互理解と友好の推進を目的としており、特に、若い世代における異文化理解と価値の共有は、「堺・アセアンウィーク」全体を通したテーマとなっています。出典：堺市ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/index.html>

P12「堺市マスタープラン」

堺市総合計画「堺21世紀・未来デザイン」の基本構想の下での、まちづくりの基本的な方向性と取組を示すものです。【計画期間】平成23～32年度10年間（2011～2020年度）

出典：堺市ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/index.html>

P24「南宗寺(堺市堺区南旅籠町東3丁1)」

弘治3年(1557年)三好長慶が父元長の菩提を弔うために、大林宗套(だいらんそうとう)を迎え開山とした臨済宗大徳寺派の寺院です。慶長20年(1615年)の大坂夏の陣による焼失後、寺地を現在の場所に移し、沢庵宗彭(たくあんそうほう)らにより再建が行われました。境内には国指定名勝の枯山水の庭、国指定重要文化財の仏殿・山門・唐門、千家一門の供養塔、利休ごのみの茶室実相庵(じっそうあん)などがあります。出典：堺観光ガイド <https://www.sakai-tcb.or.jp/>

P25「保護司」

保護司は、保護司法に基づき、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員（実質的に民間のボランティア）です。保護観察官（更生保護に関する専門的な知識に基づいて、保護観察の実施などに当たる国家公務員）と協力して、主に次のような活動を行います。なお、保護司には給与は支給されませんが、活動内容に応じて、実費弁償金が支給されます。

出典：法務省 <http://www.moj.go.jp/index.html>

P30「堺市子ども食堂開設支援補助金」

市内で新たに開設した子ども食堂の準備経費（備品、消耗品、軽微な設備改修費用等）の一部を補助します。補助額は子ども食堂1か所につき、上限20万円。募集要項は、堺市社会福祉協議会地域福祉課、同協議会区事務所（区役所内）にもあります。

出典：堺市ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/index.html>

P38「ニサンザイ古墳」

百舌鳥古墳群南東端にある全長約300mの全国7番目の大型前方後円墳。前方部が大きく広がった姿は古墳群で最も精美で新しい、5世紀後半の築造とされ、名称ニサンザイは「陵」が語源と考えられます。出典：堺観光ガイド <https://www.sakai-tcb.or.jp/>

P38「仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)」

クフ王ピラミッド、始皇帝陵と並ぶ世界3大墳墓、5世紀中ごろ築造とされ全長約486mの日本最大の前方後円墳。百舌鳥耳原三陵の一つで、墳丘は3段に築成され三重の濠がめぐり10基以上の陪塚があります。出典：堺観光ガイド <https://www.sakai-tcb.or.jp/>

P44「注染」

生地を染色する技法で、染色したい場所に糊で土手を作り、染料を注ぎ込むことで染色します。ばかしなどの技法を活かすことで、立体感を表現することに優れています。生地を表裏両面から染色するため、表も裏も同じ柄が同じ色合いで出ること注染の大きな特徴のひとつです。

中区内、石津川沿い毛穴地域では、注染の工場が現在でも多く立ち並び、手ぬぐいや浴衣、日傘などの製品が作られています。

出典：堺市ホームページ（中区） <https://www.city.sakai.lg.jp/index.html>

P45「ピクトサイン」

「ピクトサイン」とは、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（マーク）のことである。主に鉄道駅や空港などの公共空間で使用され、文字による表現の代わりに視覚的な図で表現することで、言語の違いによる制約を受けずに情報の伝達を行うことができます。

出典：公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター <https://www.accu.or.jp/jp/index.html>

P45「LGBT」

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーのアルファベットの最初の文字をまとめたもので、性的マイノリティの総称や多様な性を表す言葉としても使われています。

出典：堺市ホームページ <https://www.city.sakai.lg.jp/index.html>

目次

第1章

第2章

第3章

平成
29年度

その一

その二

その三

その四

その五

平成
30年度

その一

その二

その三

その四

第4章

事例1

事例2

第5章

事例1

事例2

事例3

資料編

これからの展望

堺市が先進的に取り組んでいるSDGsの実現のためには、公民館や図書館、博物館などの社会教育施設や学校、地域との連携による社会教育はもちろんのこと、社会教育の範囲を広く理解し、多様な人々の多様な学びでの「学びあい教えあい」を視野に入れて行く必要があります。

その場合、「学びあい教えあい」という言葉の意味についても、単に学習する行為を意味するだけではなく、SDGsの理念でもある「誰一人取り残されない社会」を築き上げる過程にある私たち一人ひとりの「気づき」や「つながり」を深めていく営みに注目していく必要があると思います。

2年前の提言書の冒頭に「私たちが重視したのは、市民のみなさんの立場から見て、『私たちが社会教育をどのようなものとして理解すれば、自分たちが楽しくなる、成長できる、そして生活がより豊かになるのか』と考えることでした」と記していますが、「学びあい教えあい」をこのように広くかつ柔軟に捉え直して社会教育を理解していくことで、社会教育の方法や内容は、人それぞれによって多様なものになっていくことでしょう。

ただ、社会教育委員会議としては、多様な社会教育の理解の普及を求めること、つまり提言書にある「社会教育への発想を切りかえる」こと、それ自体が目的ではありません。SDGsをはじめとする社会教育の推進、つまり「つながり」が広がることで、個人の幸福につながり、また地域や堺、世界中に広がることで「人類の福祉と平和」となり、「誰一人取り残されない社会」への実現につながると考えています。その大きな目的に近づくためのキーワードが社会教育の概念としての「つながり」であり、「学びあい教えあい」です。

このような「つながり」や「学びあい教えあい」なしには、SDGsの様々なゴールやターゲットは達成することはできないでしょう。そして、提言書の完成から2年が経ちましたが、その「つながり」や「学びあい教えあい」を広め、深めていくために私たちにできることはまだまだあると思います。

提言書と今回の実践報告集が、より多くの市民のみなさんに社会教育への理解と共感、そして実践を深めていくためのきっかけとなり、さまざまな機会を通じて活用されていくことを期待すると同時に、私たち社会教育委員もみなさんとともに社会教育を実践し、発信し続けていきたいと考えています。

令和元年11月

堺市社会教育委員会議
副議長 林 美輝





「つながり」が拓く堺の未来

(実践報告集)

令和元年11月発行

堺市社会教育委員会議

編集・発行

堺市教育委員会事務局

地域教育支援部地域教育振興課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号(高層館 11 階)

Tel: 072-228-7490 Fax: 072-228-7009

堺市行政資料番号:1-K3-19-0222

